SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

vol.86

平成27年３月28日発行

（公社）栃木県サッカー協会事務局
〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10
鈴運メンテック㈱ビル2F
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400
URL http://www.tfa.or.jp/

contents

2 各種表彰受賞者
3 平成27年度アクションプラン／栃木県サッカー協会取り組み
4 2015年度のＴＦＡ活動目標
11 栃木SC、2015年シーズンの闘い方
12 “2015年度に向けて”／改心～全てはチームの為に～
13 関東社会人サッカーをふりかえって
14 高校連盟より／各大会県予選結果
15 第93回全国高校サッカー選手権大会県予選～全国大会に出場して
16 新人サッカー大会／高円宮杯U－18サッカーリーグ2014ユースリーグ栃木
17 中体連サッカーの成果と課題
18 栃木県中学校体育連盟サッカー専門部（審判）の現状と課題
19 第4種委員会・第43回栃木県少年サッカー選手権大会
20 第24回バーモントカップ全日本少年フットサル大会栃木県大会
21 QUALIER CUP第32回栃木県少年サッカー新人大会
21 2014第8回関東シニア選手権大会（Over-40）成績表／（O-50）成績表
23 第15回全国シニア関東予選大会（Over60）成績表
24 第5回全国シニアフェスティバル関東予選
25 グラスルーツフェスティバル2014とちぎ
27 関東女子フットサルリーグ／地元関東大会
28 栃木SCレディースMF吉間選手、U-16日本代表に
29 2014年関東審判トレーニングセンターに参加して
30 栃木県におけるフットサルの状況について
31 ユース審判活動報告
32 女子審判トレセンについて
33 全国高校サッカー選手権大会県予選決勝戦における３県交流について／審判47年・公式戦3000試合を務めて
36 広報活動を振り返り
37 技術委員会より
38 平成26年度賛助会員ご芳名

2015年度 アクションプラン

- 公益社団法人 栃木県サッカー協会の取り組み
- 2015年度のTFA活動目標

※写真 2014年度 栃木県サッカー協会長賞、森山賞、太郎賞、特別功労賞表彰式
2015年3月1日 ホテルニューイタヤ

FAIR PLAY PLEASE フェアプレイを心がけましょう

2014年度公益社団法人栃木県サッカー協会　各種表彰受賞者

1．第42回太郎賞

４　種	三　田　楽　毅	ともぞうサッカークラブ
	高　嶋　悠　作	栃木サッカークラブ　ジュニア
	今　泉　凜　平	御厨ＦＣ
	只　友　大　輔	ヴェルフェたかはら那須Ｕ－12
	内　保　聖　斗	壬生町ジュニアサッカークラブ
	沼　尾　圭　都	今市ＦＣプログレス
３　種	早乙女　達　海	栃木サッカークラブ　ジュニアユース
	柳　澤　周　作	栃木サッカークラブ　ジュニアユース
	金　澤　礼　弥	宇都宮市立若松原中学校
２　種	國　西　達　也	佐野日本大学高等学校
	関　岡　亮　太	矢板中央高等学校
	黒　﨑　隼　人	栃木サッカークラブ　ユース
女　子	吉　間　かれん	栃木サッカークラブ　レディース
	岩　下　胡　桃	栃木サッカークラブ　レディース

2．第27回森山賞

斉　藤　芳　幸　　佐野日本大学高等学校サッカー部　監督
　第57回関東高等学校サッカー大会　準優勝

芳　賀　　敦　　栃木サッカークラブ　ジュニアユース　監督
　第29回日本クラブユースサッカー選手権（Ｕ－15）大会　ベスト８

若　松　佑　弥　　栃木サッカークラブ　レディース　監督
　第19回全日本女子ユース（Ｕ－15）サッカー選手権大会　第３位
　第18回全日本ユースサッカー選手権大会　ベスト８

3．第32回協会長賞

【団体】

佐野日本大学高等学校サッカー部
　第57回関東高等学校サッカー大会　準優勝

栃木サッカークラブ　ジュニアユース
　第29回日本クラブユースサッカー選手権（Ｕ－15）大会　ベスト８

栃木サッカークラブレディース
　第19回全日本女子ユース（Ｕ－15）サッカー選手権大会　第３位
　第18回全日本女子ユースサッカー選手権大会　ベスト８

【個人】

大　野　治　樹　　永年にわたり栃木県社会人サッカー連盟の役員として、連盟の発展に貢献された。

吉　澤　　卓　　永年にわたり栃木県少年サッカー連盟の役員として、連盟の発展に貢献された。

武　田　義　雄　　永年にわたり宇都宮サッカー協会の役員として、地域のサッカー活動の普及発展に貢献された。

天　川　裕　之　　永年にわたり真岡市サッカー協会の役員として、地域のサッカー活動の普及発展に貢献された。

4．特別功労賞

（故）十　河　正　博　　永年にわたり国際審判員、日本サッカー協会審判委員会部長並びに本県サッカー協会審判委員長として、全国及び本県の審判活動の発展に貢献された。

アクションプラン

公益社団法人
栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人
栃木県サッカー協会のビジョン

1．栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2．競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3．フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み（TFAミッションファイル）

≪10年後の達成目標（TFAゴールプラン2022）≫

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）のうち、**プレーヤー・審判員・指導者が4万人**（県民の2%）になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13～18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	2014年度 サッカー選手登録 17,709人 フットサル登録 444人 審判員 5,373人 指導者 2,189人 計 25,715人 県民人口 1,980,556人 県民の 1.30%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が**「日本代表」として5名以上、「Jリーガー」として20名以上**活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	2014年度 日本代表 0人 女子日本代表 2人 Jリーガー 13人
組織の確立	（公社）栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、**全国ランキングトップ10入り**する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	2011年度 全国ランキング 第22位 ※2011以降なし
J1チームの創設・活用	**栃木SCがJ1に昇格**し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	2014年度 J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	**新たなスタジアムの完成**と県内の**人工芝サッカー場が15面に増加**する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	2014年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 3面 ・矢板市 1面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 計 11面
2022年栃木国体での大活躍	**栃木国体において「総合優勝」する**	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2015年度のTFA活動目標

（１）アクションプランの遂行＜各連盟・委員会のプランの遂行＞
（２）サッカーファミリーの拡大＜プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1．5%を目指す＞
（３）各種別の本県代表チームの活躍＜全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す＞
（４）和歌山国体でベスト4以上を目指す。
（５）仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化
（６）Ｊ2栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の確立
（７）サッカー施設の拡充＜人工芝サッカー場の1面増設＞
（８）県内各地区サッカー協会との連携・協力
（９）2022年栃木国体「総合優勝」に向けた組織体制の強化
（10）財政の健全化＜新たな収入源の確保＞

１．第１種委員会：社会人連盟

2015年度の活動目標	・県内リーグチーム強化 ・各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・各委員会の組織強化 ・Ｊ２チーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・県１部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・全国大会の誘致に向けた取り組み ・トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・県３部リーグ編成の見直しに向けた取り組み ・登録チーム数を増やすための取り組み
	＜数値目標＞ 事業及び委員会への出席率をUP（60%へUP） 登録チーム数をUP（2016年度登録時に2チーム増やす）
	＜スローガン＞ ***チーム社会人（１種）の取り組み***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	・県内大会の活性化 ・各委員会（総務・審判・技術・競技）の確立（適数人員） ・Ｊ２・JFLチームとの連携による県内チームの強化 ・栃木国体に向け運営レベルアップのために全国大会開催の事前調査及び誘致準備 ・新規チーム数を増やすための募集・広報活動
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・県内トーナメント大会要項の見直し・県３部リーグの再編成 ・各委員会メンバーの適正化 ・Ｊ２・JFLとの連携・協力

２．第２種委員会：高校連盟

2015年度の活動目標	・高校サッカーの活性化（男女） ・高校サッカー部員の増加（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	＜数値目標＞ 部員数　3,000人　　全国大会入賞
	＜スローガン＞ ***高校サッカーを盛り上げよう！***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・技術・審判の質の向上 ・男子部・女子部の連携強化 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化（試合結果速報等） ・プリンスリーグ関東への本県代表参入 ・他種別との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・全国高校サッカー選手権大会栃木大会の更なる活性化 ・技術・審判の連携 ・ユースリーグ運営面での整備

	・プリンスリーグ参入戦に向けての代表チームへの協力体制づくり ・キッズ講習会の開催（キッズ委員会との連携） ・県総体決勝戦の男女共同開催

3．第３種委員会：中学連盟

2015年度の活動目標	・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	＜数値目標＞ ① U-15リーグに85%以上のチームの参加 ② B級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上 M4による指導者講習会への参加率70%以上
	＜スローガン＞ ***より良い育成環境を目指して***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業及び指導者研修
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・U-15リーグ （１部リーグ・２部リーグ・３部リーグ・４部リーグ） ・公認Ｂ級および公認Ｃ級コーチ養成講習会 ・10地区での指導者講習会

4．第４種委員会：少年連盟

2015年度の活動目標	【地域】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○８地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する。 【技術】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い技術委員会活動時期・内容変更を行う。 ○関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～ 【審判】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い審判委員会活動時期・内容変更を行う。 ○スタンダードの確立 【広報】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○正確な情報を迅速に提供する 【ﾌｯﾄｻﾙ】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○フットサル研修会の開催方法を，県フットサル委員会と協力して検討 審判・ルール・指導・普及等 【ｷｯｽﾞ】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立 ○各地区での指導者養成
	＜数値目標＞ 【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守 【技術】 関東選抜大会ベスト4以上 【審判】 少年連盟から2級を2人つくる
	＜スローガン＞ 【技術】 ***プレーの質を追求しよう*** 【審判】 ***基本に忠実に*** 【広報】 ***正確・迅速***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	【地域】①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う計画の立案に参画する。 ②各地区大会の円滑な運営 ③地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ④各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ

	【技術】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②県トレセン活動の充実 ・トレーニングの質の向上 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析　・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加 【審判】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②各地区ごとの審判研修・実技研修の充実 ③３級インストラクターの育成 ④県審判トレセンへの参加 ⑤県派遣審判への協力 【広報】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②大会運営者・企業との円滑な情報連携 【ﾌｯﾄｻﾙ】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②少年サッカー連盟フットサル研修会の開催 【ｷｯｽﾞ】①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②県・地区技術委員会との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	【地域】①地域リーグ（県大会予選）の導入と運営 ②各種県大会の運営 ③地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ④地区の理事会の活性化 【技術】①地区トレセン活動の活性化（伸びた選手は県トレセンへ推薦） ②日本少年サッカー大会県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー（他県の選手のレベル・戦術分析） 【審判】①審判研修の定期的開催 ②他連盟審判員との交流 ③技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ④２級審判員育成のためのエリートプログラムの作成 【ｷｯｽﾞ】①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会

５．女子委員会：女子連盟

2015年度の活動目標	・12～13へのパイプ作り（マッチデー） ・15年代の強化（トレセン強化） ・初心者へのアプローチ（グラスルーツ） ・女子審判の育成　ユース審判の育成
	＜数値目標＞ ・マッチデー３回　U12４種県トレ×U13女子トレセン ・グラスルーツ２回　大田原地区　足利地区 ・ワンデー２回　U12経験者対象。県央 ・３級審判の育成　審判トレセン
	＜スローガン＞ ***さあ！始めよう７年後の本国体に向けてできること。***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	・４種の12と女子の13の交流の場を作り、継続へ繋げる。 （４種委員会からの協力を経て実現となった） ・女子登録15のチームのトレセン参加率引き上げと強化 （栃木SCを中心に多くのチームからの参加を募り魅力あるトレセンへとしていく） ・初心者へのアプローチとしてワンデーやグラスルーツを行う。 （ビラの配布など告知に努め、指導者や指導を経験する場とし選手としても幅を広げる）

	・国体への参加協力の徹底と大学生の参加確保への協力。 （大学の指導者屋、他県の指導者と交流を持てる環境をつくる） ・審判トレセン　高校交流リーグや県リーグをトレセンの場とする。 又、ユース審判の育成に向け各チームの協力を得る。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・U-13マッチデー ・グラスルーツ（２回） ・ワンデーサッカークリニック（２回） ・審判トレセン（３回）

６．クラブユース連盟

2015年度の活動目標	・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上
	＜数値目標＞ 帯同審判の講習会に100%のチーム参加
	＜スローガン＞ ***未来を担う選手たちと共に！*** ***（高めあい・競い合い・認め合う）***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト８までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

７．シニア委員会：シニア連盟

2015年度の活動目標	・シニア連盟の組織化 ・未登録チームの協会登録強化（各年代） ・全国大会予選会の突破
	＜数値目標＞ 各年代（Over40・Over50・Over60・Over70）の全国大会出場
	＜スローガン＞ ***各年代での全国大会出場***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・シニア委員会の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・シニア委員会の地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（O-40，O-50）９月 ・シニアサッカーリーグ（O-40，O-50）５月～２月

８．技術強化委員会

2015年度の活動目標	・2022栃木国体＋10年を視野に入れた諸事業のスタート ・トレセン活動のさらなる充実と指導者の関わり ・栃木TSG(テクニカルスタディグループ)の発足
	＜数値目標＞ 関東トレセン大会各種別Ａクラス入り
	＜スローガン＞ ***全県一致***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	・U-10キッズトレセン（①８/29、②２/28）・・・国体世代 U-10，９選手の掌握（データベース化） キッズ、4種との連携 ※11月にU-９地区大会のサポート（キッズ、４種企画） ・各種別の指導者の掌握（データベース化） 若い指導者の育成とネットワークの形成 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元

目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・U-14 タイ遠征 ・大学選抜韓国遠征（将来の成年代表としての期待も含め）

9．フットサル委員会：フットサル連盟

2015年度の活動目標	数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追随する存在にまではなった。 しかしここ数年は、フットサル事業の根幹を成す男女社会人チーム数の登録数の伸び悩みが課題として上がってきている。2014年度は微減となり大会運営にも若干の影響が出た。社会人チームの減少は、本県のフットサル人口の減少に大きく影響してくるため、長中期の重要課題としてフットサルの普及振興をより厚みのあるものとする必要がある。 また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、元来、少人数で運営をしてきたフットサル委員会・連盟事業の役員数が足りなくなってきている。負担が集中してしまっている役員も生まれてきている。新たな役員を育成し組織としての体力をつける時期に差し掛かってきている。
	＜数値目標＞ 男女一般チーム登録を前年度の２５チームから３０チームを目標に増加させる
	＜スローガン＞ ***再興　栃木のフットサル***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	①男女栃木県リーグのチーム数増加と安定稼働 ②U-15など各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③バーモントカップ全日本少年大会の主管移行に向けた準備 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会（U23、U18、U15） ⑧各種普及イベント

10．審判委員会

2015年度の活動目標	①各種別・各連盟との連携により審判員・並びに指導者の育成強化を図り、指導システムを確立する。（短期） ②審判トレセン、ユース審判員育成を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に各連盟から強化審判員を輩出させる。（短、中期） ③日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自の審判指導体制、育成システムを構築させる。（長期） ④ＷＥＢ登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。（短期）
	＜数値目標＞ 審判員登録数を１級　７名、２級　60名、３級　500名、４級　5,000名、フットサル　700名、女子　10名を目標に育成する。（中期、長期）
	＜スローガン＞ ***ＴＨＥ　ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ　ＴＯ　ＲＥＦＥＲＥＥ ＦＲＩＥＮＤ‘Ｓ　ＤＲＥＡＭ（審判仲間の夢への挑戦）***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	（１種） ①２級審判員２名、２級インストラクター１名、３級インストラクター１名の輩出。候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。

②中堅審判員研修会の充実
35歳以上＆３級取得後５年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る。
（２種）ユース審判員、高校女子審判員対象の研修会を実施する。
（３種）
①審判員の養成。具体的には、２級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。
②３種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に２回行われている講習会の充実を図る。
（４種）
①全地区において４級帯同審判員対象の審判研修会・実技研修会を実施。
②年２～３回の３級審判員研修会を実施する。
③審判と技術合同ですり合わせの研修会を実施する。
（女子）
①現在の３・４級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。（練習試合、連盟内トレセンを利用）
②４級審判より３級審判を１名養成する。
（４級資格取得講習会より３級審判候補としてピックアップする）
③各チームから複数の女子審判員を養成する。
（シニア）
①各チームに、審判資格取得者を４名以上確保する。
②シニアの各カテゴリー（O-40からO-70まで）において、最新のルールを正しく理解させ、年１回以上研修会を行う。
（クラブ）
①２級審判員を目指す若手３級審判員を発掘する。
②３級インストラクター１名を増員する。
③カテゴリーを越えた審判員活動機会に積極的に参加させ他のカテゴリーの審判員との交流を図る。
（フットサル）
①フットサル審判員の養成と確保（特に若手、女性）
②フットサル審判員の資質の向上を図る。
③新たに1級1名、2級2名、3級5名の誕生を目指す。
④３級昇格審査会、４級取得講習会を充実する。（特に３級昇格審査会）
⑤２級３級４級更新講習会を充実する。
⑥２級３級対象の審判研修会を実施する。（１級審判員を講師に迎えての実施）
⑦リーグ、各競技会に審判員及びインストラクターを派遣する。
（指導・育成・インストラクター）
①12回の審判トレセンを実施する。
②３級審判員フォローアップ研修会を実施する。
③２級・３級審判員を強化、増員する。（関東強化４名を目標）
④インストラクターを増員（SI2：５名、SI3：20名）する。
⑤審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。
（審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。）
⑥トップレフリーセミナーを開講し、上位の審判員を強化する。
（競技部）
①kickoffサイトの有効利用
関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。
②審判委員会委員への審判割当の公開
TFAのGmailに審判割当を送信して審判委員会委員に公開することで、インストラクターの派遣や情報公開に繋げる。

目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	（１種） ・県社会人リーグや天皇杯予選などを使用して実施する。 ・１種主催の研修会の開催 （２種） ユース審判員 ・４級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。 ・各県予選会にユース審判員を割当てる。 ・全日本少年サッカー大会へ派遣する。 高校女子審判員 ・JFAによる都道府県審判トレーニングセンターを利用する。 ・JFAによる女子審判員育成・普及に関わる講習会・研修会を利用する。 （上記２つを４級審判員資格取得講習会として扱う。） （３種） ＜研修会実施時期＞ ・１０月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に実施。 ・２月・・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、４試合で実施 講習内容は、ルール解説、試合観戦（割り当て者もいる）、質疑応答、技術トレーニング。これらの、内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。 ＜講習会における目標＞ ・審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。 ・県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。 ・審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する、機会とする。 ・「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる、機会とする。 （４種） ・各地区から推薦された派遣審判員をカテゴリー分けする。 ・カテゴリーに準じた審判を割当てる。 ・２級審判育成プログラム、３級インストラクター育成プログラムの策定。４種所属の審判員参加の審判トレセンを実施する。 （女子） ・現在の３・４級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。 （練習試合、連盟内トレセンを利用） ・４級審判より３級審判を１名養成する。 （４級資格取得講習会より４級審判をピックアップする） （シニア） ・審判の取得･更新を通知で啓発する。 （クラブ） ・クラブ選手権及び高円宮杯、U13、U15リーグ戦において発掘する。 ・インストラクター取得講習会の案内を行う。 ・社会人リーグやU18リーグへの参加を呼びかける。 （フットサル） ・フットサルの１級審判員を輩出する。 ・栃木県フットサルリーグ（１部・２部）へ審判員及びインストラクターを派遣する。 ・関東フットサルリーグへの審判派遣とインストラクター協力 ・バーモントカップ県予選、U18及びU15大会県予選への審判員を派遣する。 ・全日本選手権（プーマカップ）栃木県予選へ審判員を派遣する。 ・栃木県女性フットサルリーグへ審判員及びインストラクターを派遣する。 （指導・育成・インストラクター） ・１種から４種審判員の合同研修会並びに各級でのフォローアップ研修を設け充実する。 ・年度当初に強化審判員を指定する。 ・年間80試合にアセッサーを割り当てる。 ・年２回のインストラクター研修会を実施し資質向上を図る。 ・年２回以上の女子トレセンを実施する。 ・国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。

11．キッズ委員会

2015年度の活動目標	・巡回指導の拡大 ・地区フェスティバルの充実（年２回以上） ・JFAフェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・４種指導者に向けての研修会開催
	＜数値目標＞ 子どもたち延べ20,000人との交流
	＜スローガン＞ ***キッズから栃木のサッカーを変えていこう***
2015度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	・巡回指導　150回（実質80園・小学校30校） ・各地区フェスティバルや交流戦、大会などの年２回以上開催 ・JFAフェスティバルの内容の検討 ・JFAグラスルーツフェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・高校生との交流事業の拡大
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	・栃木SCスマイルキャラバン ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・キッズリーダー養成講習会

栃木SC、2015年シーズンの闘い方

栃木SC　強化・育成部長
湯田　一弘

栃木県民の皆様方や県内のサッカーファミリーの方々のご支援の賜物として、債務超過問題を解決できましたことをご報告すると共に厚く御礼を申し上げます。

2015年の栃木SCのスローガンは「**熱誠**―すべては栃木のために」であります。ピッチ内外において、熱く感謝の心を持って激しく闘い行動して参ります。そして、ふるさと栃木の皆様と共に、「人を育てる・ふるさとに貢献する」ことも目指しております。

今シーズンは、昨シーズンの闘い方を厳しく反省し、阪倉体制２年目のシーズンは、より進化した前線からの積極的な守備から得点を目指すという「アグレッシブなサッカー」を体現すべくスタッフ、選手を獲得して参りました。

栃木SCは、ビッグクラブではありません。債務超過のひとつの要因でもあった外国籍の選手に頼ったチーム作りという考え方ではなく、一歩一歩着実に継続的なチームの積み上げを行い、チームを強化育成していこうと考えております。2015年のチームも全員がハードワークをし、勝負におけるしたたかさを持ち合わせたチームを作って行くべく現場スタッフ・選手一丸となって闘って参ります。監督が掲げるサッカーを体現するには、日々のトレーニングが重要なのは、言うまでもありません。監督自身も、日々のトレーニングにおいて、「ハードワークできない選手はピッチに立たせない。」ということ力説し、攻守の連続性、そしてカウンターからの得点をメインにしたトレーニングを重ねています。

また、スタッフ、選手達はゲームにおいて勝利を目指すだけでなく、栃木の県内におけるサッカー教室、各種イベントに熱く、参加しております

シーズン42ゲームあります。ピッチ内外でいろいろなことが起こります。いいことばかりでありません。冷静に的確に対応しなければなりません。まさに人生もゲームも同じではないでしょうか？Ｊ１経験チームが11あります。厳しいリーグになります。しかし、栃木SCは、栃木のために、サポーターと共に、勝って県民の歌を歌うために、最後の最後まで闘いぬきます。熱きご声援よろしくお願い申しあげます。

“２０１５年度に向けて”

栃木ウーヴァフットボールクラブ
広報　古川　雅士

日頃から、栃木県サッカー協会はじめ皆様には当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨シーズンの不本意な成績をしっかりと受け止め、今シーズンは危機感を持ち、JFL入会６年目を飛躍の年とします。クラブは、事業規模の拡大、地域密着度のバロメーターである入場者数の増加、地域支援体制の確立、安全でアットホームな試合会場の創造など課題を着実に克服し、JFLの中で常に上位争いができるよう努め、地域に密着したＪリーグ百年構想クラブにふさわしいクラブとしてＪリーグ入りを目指します。

今シーズンは新たに前田和也がコーチから監督に昇格しチームを指揮します。現役時代ウーヴァFCのJFL昇格に大きく貢献し当時と変わらぬクラブ愛と情熱で選手へ闘魂注入をします。過去２年間はＪ３の新設等で自動降格や入替え戦のない変則的なリーグ編成となっていましたが、今シーズンより従来通りの下位２チームの自動降格と下位３チーム目の入れ替え戦が復活となり絶対に負けられない戦いが続きます。その中で、若さという勢いとベテランの手綱を調和させアグレッシブなサッカーで、「勝ちにこだわり緊張感と妥協の許されない雰囲気の創造」をチーム・クラブ一丸となって図り応援してくれる全ての人々に「感動」という恩返しができるよう90分を走り続けます。

クラブは発祥の地である栃木市をホームタウンに小山市、佐野市、足利市、野木町、壬生町の４市２町の栃木県南地域を活動範囲として、地域のスポンサー、ファン・サポーター、ボランティア、行政、各種団体など多方面のご支援をいただきながら、仕事とサッカーを両立するプロ集団として活動します。同時に、育成組織の充実を図るとともにスクール活動や小学校へ訪問する夢先生などで地域の子どもたちとの触れ合いの機会を増加・持続します。サッカーを通じ子どもたちや地域の人々に「夢・希望・感動」を与え元気と活力をもたらす「ひとづくり」や「まちづくり」に貢献します。今年もサッカーを通じて多くの県民の皆様や地域の活性化のために活動してまいります。ご支援、ご声援よろしくお願い申し上げます。

改心～全てはチームの為に～

ヴェルフェたかはら那須
山本　武則

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめ皆様には多くの御支援、御協力を賜り誠にありがとうございます。

2008年に矢板SCから現在のチーム名「ヴェルフェたかはら那須」に変わり８年目になります。矢板SCから通算すると、トップチームは今年で14年目の関東リーグになります。

ジュニア・ジュニアユース・女子フットサル・トップチームと各カテゴリーで活動できるチームがあり、近年では“ヴェルフェたかはら那須”と言うチーム名が地域に浸透してきました。

育成年代であるジュニアは、昨年の第43回栃木県少年サッカー選手権や、この冬の第32回栃木県少年サッカー新人大会では準優勝の成績を、ジュニアユースも昨年の県U-13リーグでは、第４位の成績を収めることが出来ました。女子フットサルも2013年と2014年には県リーグで準優勝の成績を収め、また個人フットサルを開催したり、他地域

のクラブとの交流を深めるなどして、競技人口の拡充などに努めております。

トップチームは昨シーズン10名の選手が加入し、そのうち８名が栃木県出身の新卒の選手でした。県外の大学から栃木に戻り、より高いレベルでサッカーを続けたいとチームに入団してきました。若い新加入選手を多く迎えてスタートしたリーグ戦ですが、開幕から４試合連続で引き分け、前期７節目にしてようやくリーグ戦初勝利と厳しい状況が続きました。その結果、シーズン前の目標である関東リーグ優勝・JFL昇格という目標を達成できずに、関東リーグ１部６位と不本意なシーズンとなってしまいました。

今年は新しく就任した堀田監督のもと、チームコンセプト、チーム戦術を理解し、全ての目標を達成できるように日々努力していきます。

チームスタッフ・選手は、全員が今年もアマチュアで教員・公務員・会社員・アルバイトをしている選手と様々です。毎週火・水・木曜日の夜7:30～9:30の練習と、土・日に試合及び練習をする毎日です。夜間の練習は中学校や高校のクレーコートを使用しています。とても恵まれた環境でサッカーをしているとはいえませんが、チームスタッフ・選手達は“JFL”という目標のステージに上がるまで目標達成の為に必死に取り組んでいます。

今年はGK小林庸尚キャプテンがチームを引っ張ります。若手とベテランの融合、チーム規律の再確認、などチームとして一つになり子供達や地域の人々に夢や希望を感じてもらえるような試合を披露したいと思います。

去年は春と夏に行われた栃木県障害者サッカーフェスティバルの協力や、毎年継続して地域のイベント協力も行ってきました。障害者サッカーフェスティバルでは、サッカーボールを通して喜びや楽しみを共有し、改めてサッカーの素晴らしさを感じることができました。地域のイベント協力では、地域の方々と触れ合い、子供達や皆さんの沢山の笑顔と言葉に元気を頂きました。今後も協力を継続して、このような活動やイベントに積極的に参加し、地域に誇れるクラブをめざして、大切にしていきたいと思います。

2015シーズンのチームスローガンは、改心～全てはチームの為に～。

私達はサッカーを続けさせて頂いている環境を与えてくださっている皆様に感謝の気持ちを忘れずに、少しでも栃木県のサッカーを盛り上げていけるように頑張っていきます。

今後もヴェルフェたかはら那須を何卒宜しくお願いします。

関東社会人サッカーをふりかえって

AS　CASA代表　島野　豊

11月15日から群馬県開催関東社会人サッカー大会にAS　CASAは、栃木県第二代表として初出場しました。

はじめに、この場を借りて応援してくださったサポーター、協力して頂いた仲間たちに感謝です。初戦の相手はFC　TIU（埼玉１位）。大会形式は一発勝負のトーナメント方式。

試合前のミーティングでは『相手より楽しめ！』

それから、リーグ戦の戦い方とは多少変更し試合開始となりました。前半開始から上手く試合を進め先制点！！

何度か追加点のチャンスもありましたが、そのまま前半終了。後半に入り10分に追加点（２－０）！！

しかし、前半から続けたハイペースによって、

追加点の５分後くらいから徐々にボールを拾えず相手ペースへ。そして失点…

その後も失点を重ね終わってみれば、２－３の逆転負け。

敗因として悔やまれるのが、失点後『意思統一』が出来なかったこと。リーグ戦では、どんなに内容が悪くても全員の意思統一が出来ていただけに、悔しい敗戦となりました。

しかしチームは関東大会出場という、また一つの歴史をつくりあげた大会。

そしてこの結果に満足せず、さらなる飛躍をしようと新たなスタートを切りました。CASAに取り巻くすべての人に、夢や感動を与えらるよう進んでいきます。

１．高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林　宏至

現在、高校連盟は63校が県高体連サッカー専門部において、各大会に参加しています。

10月から11月にかけて行われた第93回全国高校サッカー選手権大会栃木大会２次予選は、インターハイ予選の上位８チームと８月に実施した１次予選勝ち抜いた16チームの計24チームが熱い戦いを繰り広げました。

準決勝では矢板中央高校対宇都宮白楊高校、足工大附属高校対佐野日大高校の試合が行われ、その結果、矢板中央高校と佐野日大高校がそれぞれ勝ち上がりました。

今年度４度目の同校同士の対戦となった決勝戦は２対２の同点から延長戦でも決着がつかずPK戦になりました。PK戦も最後までもつれましたが矢板中央高校が８対７で勝利し、２年連続６度目の全国大会出場を決めました。

矢板中央高校は全国大会において、初戦愛媛県代表の松山北高校に３対２で逆転勝ち、２回戦では優勝候補の千葉県代表流通経済大柏高校にPK戦の末惜しくも敗れましたが、素晴らしい戦いを見せてくれました。

また、年を重ねるごとに整備されてきたユースリーグですが、今年度は、のべ74チームが参加しました。

試合数が確保されたことにより、各チーがレベルアップすることができ、さらに各チームより複数チーム参加を認めたことにより、多くの選手たちに公式戦の機会を与えることができるようになりました。

しかし、日程の過密化や選手・顧問への負担の増大、学校行事との関係等、課題も多いのが現状です。課題を一つひとつできるところから取り組み、皆がよりよい方向で参加できるように努力していきたいと考えています。

１部では栃木SCユースが無敗で優勝し、関東プリンスリーグ参入戦に出場しました。

同参入戦では、初戦神奈川県代表の横浜SCユースに２対０で勝利し、参入決定戦に臨みましたが、残念ながら埼玉県代表の昌平高校に０対２で敗れ、惜しくも昇格を逃しました。

平成27年２月現在で、本年度の行事も栃木県高校サッカー新人大会のみとなりました。各校とも優勝を目指し、熱戦を繰り広げています。

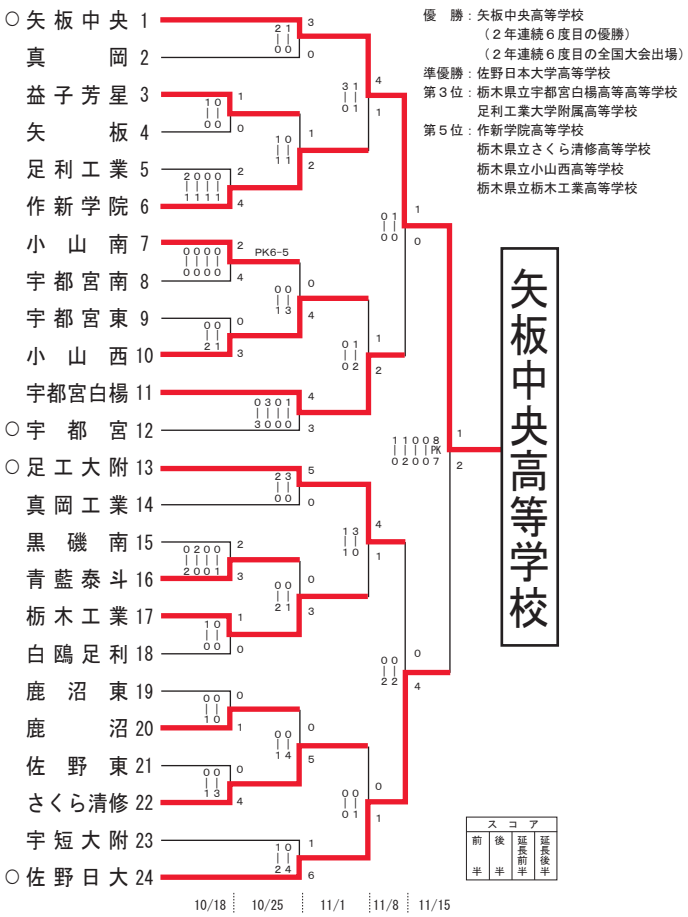
次年度に向けて、よりよいサッカー環境を整備できるよう、専門部一同取り組んでいきたいと思います。

２．各大会県予選結果（男子）

①選手権大会栃木大会

矢板中央高校（２年連続６度目の優勝）

平成26年度　第93回　全国高等学校サッカー選手権大会　栃木大会　結果
平成26年10月18･25日　11月1･8･15日



優　勝：矢板中央高等学校
（２年連続６度目の優勝）
（２年連続６度目の全国大会出場）
準優勝：佐野日本大学高等学校
第３位：栃木県立宇都宮白楊高等高等学校
足利工業大学附属高等学校
第５位：作新学院高等学校
栃木県立さくら清修高等学校
栃木県立小山西高等学校
栃木県立栃木工業高等学校

第93回全国高校サッカー選手権大会 県予選～全国大会に出場して

矢板中央高校サッカー部
監督　高橋　健二

昨年に続き、第93回全国高校サッカー選手権大会に２年連続６回目の出場をすることができました。

県予選では、初戦で真岡高校と対戦し２回戦以降も作新学院、宇都宮白楊、決勝戦では佐野日大高と栃木県高校サッカー界を代表する強豪チームとの対戦になりました。

すべての試合において一進一退のゲーム展開となりましたが、選手たちは最後まで諦めることなく粘り強く戦いで優勝を成し遂げてくれました。

特に今大会で難しかったことは、大会期間中のコンディションです。初戦の真岡高校戦にピークを持っていったことで、２回戦以降予想どおり苦戦を強いられました。１つの大会で再度ピークを作ることの難しさを改めて痛感しました。また、各チームが特徴を最大限に発揮する戦術やシステムを採用してきたために、当初に予定していた戦術を試合中に変更せざるを得なくなりました。選手たちは冷静に対応し、日頃の練習の成果を発揮して勝利に導いてくれました。

この大会で選手たちに求めたことは、基礎基本を大切にすることと今まで支えてくれた方々への感謝をプレーで表現することです。また、相手チームの選手も同じ目標を持った仲間であることを理解して試合中にはフェアプレーで相手をリスペクトし、終了後には勝っても負けても相手チームや応援団に感謝の気持ちを持って接しようと話をして試合に臨みました。今回の大会では、フェアプレー賞をいただきました。これは優勝という結果と同等、またはそれ以上に喜ばしいことであり、チーム、選手の成長を感じることができるものでした。

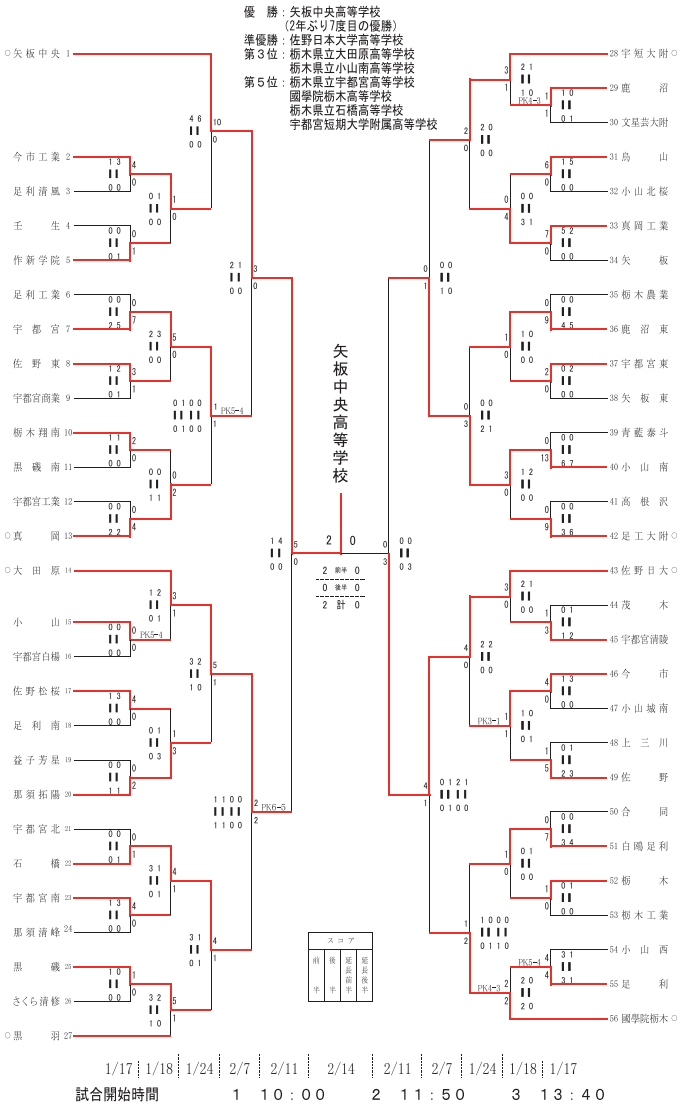
全国大会も厳しい試合の連続でしたが、応援してくれた仲間たちの代表として、選手たちは全力プレーを展開してくれました。１回戦では、松山北高校に逆転勝利をおさめ、２回戦では流通経済柏高校にPKの末、敗れはしましたが選手たちの全力プレーやフェアプレー、そして仲間を応援するスタンドの声援に私自身が感銘を受けました。

目標であった日本一には手が届きませんでしたが、今後も栃木県のライバルであり、仲間であるチームと共に切磋琢磨して、再び新たな目標に向かって精進していきたいと思います。

②新人サッカー大会

矢板中央高校

平成26年度　栃木県高等学校サッカー新人大会 結果
平成27年1月17･18･24･31日　2月1･7日(予備日:2月11･14日)



③高円宮杯U-18サッカーリーグ2014
ユースリーグ栃木

「１部」

順位	チーム	勝点	来季
1位	栃木ＳＣ	52	
2位	佐野日大高校	46	
3位	矢板中央高校	42	
4位	真岡高校	33	
5位	宇都宮高校	23	
6位	宇都宮白楊高校	20	
7位	宇都宮短期大学附属高校	16	
8位	小山西高校	15	２部降格
9位	國學院栃木高校	8	２部降格
10位	大田原高校	5	２部降格

「２部Ａ」

順位	チーム	勝点	来季
1位	佐野日大高校Ｂ	51	
2位	矢板中央高校Ｂ	39	
3位	益子芳星高校	35	１部昇格
4位	小山南高校	31	１部昇格
5位	鹿沼高校	30	
6位	足利工業大学附属高校	27	
7位	石橋高校	27	
8位	黒磯高校	12	３部降格
9位	今市高校	9	３部降格
10位	足利清風高校	4	３部降格

「２部Ｂ」

順位	チーム	勝点	来季
1位	さくら清修高校	45	１部昇格
2位	真岡高校Ｂ	44	
3位	白鷗足利高校	31	
4位	栃木ＳＣ-Ｂ	27	
5位	鹿沼東高校	26	
6位	宇都宮白楊高校Ｂ	26	
7位	鹿沼東高校	23	
8位	宇都宮工業高校	18	３部降格
9位	宇都宮清陵高校	18	３部降格
10位	高根沢高校	1	３部降格

「３部ａ」

順位	チーム	勝点	来季
1位	矢板中央高校Ｃ	48	
2位	宇都宮白楊高校Ｃ	44	
3位	宇都宮短期大学附属高校Ｃ	41	２部昇格
4位	矢板東高校	32	２部昇格
5位	宇都宮高校Ｂ	27	
6位	那須拓陽高校	25	
7位	さくら清修高校Ｂ	25	
8位	黒羽高校	19	
9位	那須清峰高校	18	
10位	宇都宮工業高校Ｂ	18	
11位	黒磯南高校	13	

「３部ｂ」

順位	チーム	勝点	来季
１位	宇都宮東高校	40	２部昇格
２位	文星芸術大学附属高校	37	
３位	宇都宮北高校	36	
４位	今市工業高校	34	
５位	真岡工業高校	33	
６位	矢板中央高校Ｄ	27	
７位	茂木高校	22	
８位	宇都宮商業高校	19	
９位	作新学院高校	18	
10位	宇都宮短期大学附属高校Ｂ	17	
11位	宇都宮南高校	9	

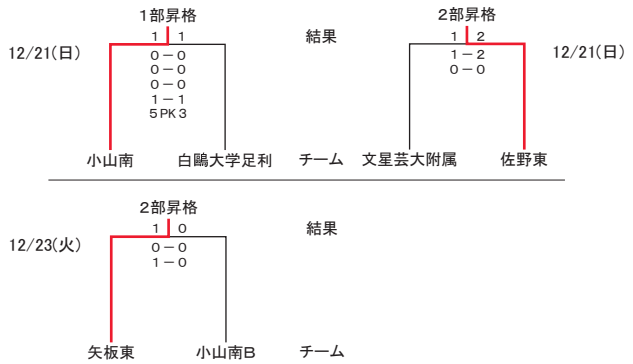
「３部ｃ」

順位	チーム	勝点	来季
１位	足利工業高校	49	２部昇格
２位	佐野東高校	46	２部昇格
３位	栃木工業高校	39	
４位	佐野日大高校Ｃ	34	
５位	真岡高校Ｃ	28	
６位	國學院栃木高校Ｂ	27	
７位	小山城南高校	23	
８位	小山西高校Ｂ	22	
９位	栃木高校Ｂ	17	
10位	青藍泰斗高校	15	
11位	佐野高校	12	
12位	上三川高校	0	

「３部ｄ」

順位	チーム	勝点	来季
１位	佐野日大高校Ｄ	53	
２位	足利高校	43	２部昇格
３位	小山南高校Ｂ	38	
４位	小山高校	32	
５位	白鷗足利高校Ｂ	32	
６位	壬生高校	24	
７位	佐野松桜高校	17	
８位	栃木翔南高校	14	
９位	佐野日大中等教育学校	14	
10位	栃木工業高校Ｂ	11	
11位	栃木農業高校	7	

「昇格決定戦」



中体連サッカーの成果と課題

３種技術委員長
中体連技術委員長　御子貝　和亮

現在、中学校の部活動で中体連に加盟し大会等に参加しているチームは約90チームあり、部員数は約1000人を超える。６年生から中１になるときに、クラブか中体連かを選択する際、多くの選手が学校部活動を選択している。栃木県の中体連チームのほとんどが全国中学校サッカー大会を最高峰の大会はとして位置づけている。ただ栃木県大会を突破しても関東大会では、ここ５年以上１回戦を突破できずにいる。中体連技術委員会では、毎年関東大会出場チームに合宿等でチームのお手伝いをさせていただいているが、短期的な取り組みでチーム力がアップすることは難しく思う。このような結果もふまえた上で現在の栃木県中体連におけるチームの課題と今後について述べてみたい。

①チーム内の意識格差・技術格差

中体連チームは部活動＝学校教育活動の一環であり、様々な考え方の選手が活動している。技術レベルや意識レベルに差があり、特に、意識レベルの差は大きく、中学校でサッカーをやって技術レベルを上げ高校で活躍し、夢はＪリーガーと思う選手は少ないのではないかと思う。保護者も生徒も学校の部活動に入って３年間継続することが目標とし、楽しそうだから、友達と仲良くやれるから、ユニホームが着られるからという理由で入部してくる。そういった選手とサッカーの技能向上を目指す選手との意識や技術の差が生じていて、チームを同じ方向性でマネージメントすることが困難な状況である。今後、このような技術レベルと意識レベルの差をうめるためには現場での対応だけでは改善することは難しい。長期的視野での学校教育活動における部活動そのものの構造から見直さなければ埋められるものではないと考える。

②指導者の質の向上

中体連のチームではサッカー専門の指導者が顧問になっているとは限らず、望ましい指導が行われていないのが実情である。そこで、JFAのミッション４「中学生年代の環境充実」の一環として地区ごとに中体連の指導者を対象に基本的な内容にフォーカ

スした指導者講習会を継続して実施してきた。しかし、指導実践力がアップしたとは必ずしも言えない。選手の欲求と指導者の実践能力に差があり、よいチーム作りができていない。最終的には指導者のサッカーに対する情熱と意欲にあると考える。県をあげて若い指導者、情熱のある指導者の育成が必要である。今後、指導者養成において、多くの指導者が実践をともなう講習を受講することと、各地区のトレセンに若い指導者を抜擢し育成をしていくことや、C級コーチの資格取得から、さらに上級のA・B級コーチの資格取得に積極的にチャレンジするよう呼びかけていきたい。

③ゲーム環境

中体連のチームは、限られたスタッフ、よいとはいえないグランド環境、学校の時間の制約、部員不足、選手の技術・意識の差、等よい環境とはいえない中で日々活動している。そんな中、指導者の情熱により、限られたグランドや時間の中での効率のよいトレーニング、部員不足・選手の能力の格差をうめるためのトレーニングの工夫などで選手を育成している。また、ゲーム環境は、県大会・関東大会・全国大会などはすべてノックアウトのトーナメントで行われていることにより、限られたチーム以外は公式大会におけるゲーム経験が乏しくなってしまうことや、部員数が多くいるチームはレギュラー以外公式大会に出場しないで３年間を終わることもあり育成の場としては適していない。ここ数年で、リーグ戦改革が進められ栃木県U-15リーグも整備されてきて２部リーグ、３部リーグに出場チームも増えてきた。ほとんどのチームが地区ごと開催の４部リークに出場しているが、各チームがM-T-Mによるトレーニングの工夫や、Bチームの参加がないなど、リーグ戦の意図を認識してるとはいえない。今後、３種委員会と連携しリーグ戦の有効性を啓発すべきであると考える。

毎年１月に各県中体連選抜、各県内地区トレセンのチームが参加する大会に、栃木県中体連トレセンU-14・U-13が参加している。ここ数年、この大会では好成績を修めている。今年もU-13準優勝・U-14優勝であった。栃木県代表で中学校単位での大会では結果はでないが、栃木県中体連トレセンで闘うことで結果を出し、選手個々も活躍をみせている。中体連指導者が栃木県内の各チームにはポテンシャルのある選手が沢山いるということを認識し、熱意をもって研鑽をつみ指導にあたることで改善できると考える。

栃木県中学校体育連盟サッカー専門部（審判）の現状と課題

県中体連審判委員会　　大島　聡

○はじめに

育成年代の大切な選手・生徒を預かる立場としては、常にサッカーの環境充実・改善に向けて努力しなければいけない。組織や運営方法、そして審判サイドからの選手へのアプローチの面から考察したい。

○大会運営について

(1)大会運営上、審判はチーム割り当てになり、試合の合間に審判をすることがほとんどで、参加チームの指導者（審判員）の負担が大きいことがあげられる。これは、主に監督・指導者でもある先生が審判担当を兼ねていることにもよるが、学校やチームの規模の差異が負担の軽重を左右しており、中には、引率責任者、監督、審判を一人で担当せざるを得ない状況もある。

改善策としては、すでに取り組まれているチームも存在するが、審判業務の部分で保護者等の協力を得ることである。子供が少年チーム（４種）で活動中は、資格を取得し審判活動を行っている保護者も少なくない。ただ、その後資格を失効してしまうことが多く、協力を得られない１つの障害になっている。また、大会が平日開催の時は審判実施に難しさもあり、全体をカバーしきれるわけではないが、保護者の方にはぜひ審判資格を更新（取得）していただくとともに、審判割り当てにご協力をお願いしたい。また、そのような現状を把握しながら、中体連としても審判技術等の講習会の開催を通して、指導者やチーム関係者、審判員の支援に取り組んでいきたい。

(2)最近の試合においては、第４の審判員の役割は重要性を増している。これまで、中体連の大会（県大会まで）では、交代等の手続きは本部担当者が兼ねることが通例で行われており、いくつかの問題が発生していた。そこで、県大会においては、昨年度から第４の審判員を含めた審判団として試合に割り当てるように改善をした。各チームの負担が増えることにならないよう、各地区からの派遣審判員を増員し対応している。スムーズなゲームコントロールに加え、選手や

ベンチ等への対応に効果を上げている。

○組織について

(1)県内各地区から審判委員として活動いただいているが、各地区の様子や課題等が共有する機会が少ない。特に、育成年代選手の発達段階や技術等を考えた対応の必要性があり、今後も情報の共有は欠かせない。各県大会や代表者会議実施時に会議等を開催しながら、組織の充実や改善を図っていきたい。

(2)強化審判員として約20名前後で組織し、各県大会等で審判技術の向上を目指し活動している。実技研修に加え、ビデオを見ながらのディスカッションは充実してきており継続していきたい。中には上級審判員を目指して研修を積んでいる方もおり、今後に期待したい。関東大会や県内で開催される上位大会に派遣できるレベルの審判員の育成は課題であり、教員としての多忙な日程の中ではあるが、意欲的に活動できる方をできる限り増やしていきたい。

○その他

(1)ユース審判員の育成に関連して

県技術委員会・ユース委員会、県審判委員会等で話題に上がっているが、若手審判員の育成・発掘が課題になっている。中学生の段階では、資格取得する生徒はほとんどなく、練習試合の副審を下級生が務める程度である。選手が審判の経験をすることは、競技規則の理解等を深めたり、フェアプレーを考える機会になるなど、好影響が期待できる。今後はリーグ戦やトレセンマッチデーの機会等を利用できるかどうか、積極的な係わりが持てるよう検討していきたい。さらに、高校年代になり、ユース審判員として活躍したり、さらに上級審判員を目指すような存在が出てくることを期待していきたい。

(2)選手育成に関わることについて

各地区または県大会を勝ち抜き、関東・全国大会で戦える選手、チームを育成強化する中では、正しい競技規則の理解や解釈は欠かせない。審判員を兼ねることが多い中体連の指導者の資質向上は言うまでもなく重要で、今後の喫緊の課題と考えている。技術委員との協力のもと、連携して育成に関わっていきたい。

第４種委員会
第43回栃木県少年サッカー選手権大会

10月11日から５日間にわたり、第43回大会が行われました。

岡本北SSS：芝野陽翔さんによる選手宣誓で大会がスタートしました。

202チームが参加した今大会も多くの名勝負が生まれました。決勝はヴェルフェ・ヴェール(塩谷南那須)対ともぞうSC(宇河)となりました。両者一歩も譲らぬ好ゲームとなりましたが、またしてもともぞうSCが底力を見せ優勝しました。準優勝はヴェルフェ・ヴェール、第３位には栃木SCジュニア(宇河)、FC城東(下都賀)が輝きました。

＜優勝したともぞうSC＞

＜準優勝のヴェルフェ・ヴェール＞

＜第３位の栃木SCジュニア＞

＜第３位のFC城東＞

また、10月19日、25日にはジュニアの部も開催されました。４年生以下のフレッシュな大会です。結果は、FC氏家カマラーデ(塩谷南那須)、御厨FC(両毛)がブロック優勝しました。準優勝は細谷SCジュニア(宇河)、FCアネーロ宇都宮U－10(宇河)でした。

＜優勝したFC氏家カマラーデ＞

＜準優勝した細谷SCジュニア＞

＜優勝した御厨FC＞

＜準優勝のFCアネーロ宇都宮U－10＞

第24回バーモントカップ 全日本少年フットサル大会 栃木県大会

11月８日、９日にわたり、フットサルの全国大会予選となるバーモントカップが行われました。

各地区予選を勝ち上がった48チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。決勝はともぞうSC（宇河）対祖母井クラブ（芳賀）の対戦となりました。白熱した決勝戦となりましたが、ともぞうSCが制し優勝。全国大会の切符を手にしました。準優勝は祖母井クラブ、第３位にはペガサス藤岡（下都賀）と間東FCミラクルズ（下都賀）が輝きました。

＜優勝したともぞうSC＞

＜準優勝した祖母井クラブ＞

＜準優勝のヴェルフェU－12＞

QUALIER CUP 第32回栃木県少年サッカー新人大会

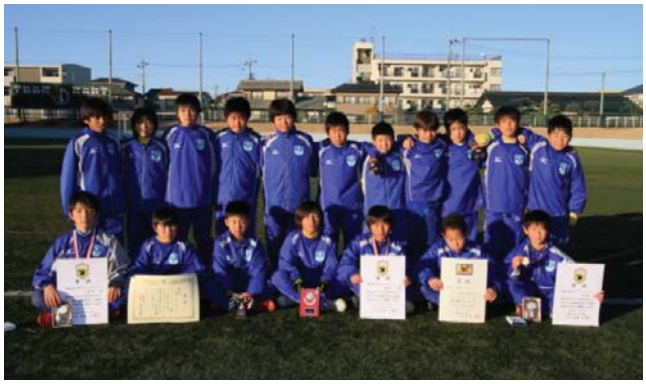
１月10日から３日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった54チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

決勝日に勝ち進んだのは、ともぞうSC（宇河）、FCアネーロ宇都宮U－12（宇河）、犬伏FC（両毛）、ヴェルフェU－12（塩谷南那須）、栃木SCジュニア（宇河）、烏山FCウィングス（塩谷南那須）の６チームでした。決勝は、ともぞうSC対ヴェルフェU－12の対決となりました。レベルの高い好ゲームとなりましたが、ともぞうSCが３－１で勝利し、優勝しました。

＜優勝のともぞうSC＞

＜第３位のFCアネーロ宇都宮U－12＞



＜第３位の栃木SCジュニア＞

2014第8回関東シニアサッカー選手権大会（Over40）　成績表

Aブロック	神奈川県	千葉県	栃木県	茨城県	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
神奈川県 BonDeBola藤沢		○ 1−0	○ 4−1	○ 1−0	3	0	0	9	6	1	+5	1
千葉県 古河市原シニア	● 0−1		○ 1−0	● 0−2	1	0	2	3	1	3	−2	3
栃木県 宇都宮FCファミリー	● 1−4	● 0−1		● 1−2	0	0	3	0	2	7	−5	4
茨城県 ラッツォス古河F. C.	● 0−1	○ 2−0	○ 2−1		2	0	1	6	4	2	+2	2

Bブロック	群馬県	埼玉県	山梨県	東京都	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
群馬県 館林シニア40SC		○ 5−1	● 4−1	○ 4−1	2	0	1	6	9	5	+4	2
埼玉県 クマガヤサッカー スポーツクラブシニア	● 1−5		● 0−3	● 1−4	0	0	3	0	2	12	−7	4
山梨県 山梨マスターズ	○ 3−0	○ 3−0		△ 1−1	2	1	0	7	7	1	+6	1
東京都 四十雀クラブ東京	● 1−4	○ 4−1	△ 1−1		1	1	1	4	6	6	0	3

優勝	山梨県 山梨マスターズ
準優勝	神奈川県 BonDeBola藤沢

Aブロック1位	VS	Bブロック1位
神奈川県 BonDeBola藤沢	0 − 1	山梨県 山梨マスターズ

第８回関東シニアサッカー選手権大会（O-50）　成績表

【Ａ組】　会場：山梨県中巨摩郡昭和町押原公園サッカー場（天然芝）※20分－10分－20分

	東京都代表	栃木県代表	埼玉県代表	群馬県代表	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
東京都代表 toyopet club−senior		① 5−0	⑨ 2−0	⑤ 2−0	9	3	0	0	9	0	9	1
栃木県代表 下都賀シニアサッカークラブ	0−5		⑥ 0−1	⑩ 2−0	3	1	0	2	2	6	−4	4
埼玉県代表 川越シニアサッカークラブ	0−2	1−0		② 2−0	6	2	0	1	3	2	1	2
群馬県代表 FC前橋50	0−2	2−1	0−2		6	2	0	1	2	5	−3	3

【Ｂ組】　会場：山梨県中巨摩郡昭和町押原公園サッカー場（天然芝）※20分－10分－20分

	山梨県代表	神奈川県代表	千葉県代表	茨城県代表	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
山梨県代表 山梨シニア50		③ 2−0	⑦ 3−0	⑫ 0−2	6	2	0	1	5	2	3	2
神奈川県代表 神奈川ドリーム	0−2		⑪ 2−0	⑧ 1−3	3	1	0	2	3	5	−2	3
千葉県代表 習志野台クラブシニア	0−3	0−2		④ 0−0	1	0	1	2	0	5	−5	4
茨城県代表 ドリーム水戸シニアFC	2−0	3−1	0−0		7	2	1	0	5	1	4	1

※　勝点　　勝ち：３点　引き分け：１点　負け：０点

【優勝・順位決定戦】

決勝	13:00	Ａ組１位	VS	Ｂ組１位	同点の時ＰＫ戦　４：３
	人工芝	1	⑯	1	
３位決定戦	13:00	Ａ組２位	VS	Ｂ組２位	同点の時ＰＫ戦
	天然芝	2	⑮	0	
５位決定戦	12:00	Ａ組３位	VS	Ｂ組３位	同点の時同率５位
	人工芝	1	⑭	0	
７位決定戦	12:00	Ａ組４位	VS	Ｂ組４位	同点の時同率７位
	天然芝	1	⑬	2	

会場試合時間表（天然芝）

日程　11/22〈土〉

	試合NO.	開始時間	対戦チーム	
第1試合	①	11:00	東京都代表	栃木県代表
第2試合	③	12:00	山梨県代表	神奈川県代表
第3試合	⑤	13:00	東京都代表	群馬県代表
第4試合	⑦	14:00	山梨県代表	千葉県代表

日程　11/23〈日〉

	試合NO.	開始時間	対戦チーム	
第1試合	⑨	9:00	東京都代表	埼玉県代表
第2試合	⑪	10:30	神奈川県代表	千葉県代表
第3試合	⑬	12:00	A組4位	B組4位
第4試合	⑮	13:00	A組2位	B組2位

会場試合時間表（人工芝）

	試合NO.	開始時間	対戦チーム	
第1試合	②	11:00	埼玉県代表	群馬県代表
第2試合	④	12:00	千葉県代表	茨城県代表
第3試合	⑥	13:00	栃木県代表	埼玉県代表
第4試合	⑧	14:00	神奈川県代表	茨城県代表

	試合NO.	開始時間	対戦チーム	
第1試合	⑨	9:00	栃木県代表	群馬県代表
第2試合	⑪	10:30	山梨県代表	茨城県代表
第3試合	⑬	12:00	A組3位	B組3位
第4試合	⑮	13:00	A組1位	B組1位

第15回全国シニア関東予選大会（Over60）・成績表

【A組】　会場：市原スポレクA（道路側）B・C・D（人工芝）※20分―10分―20分

	東京都	埼玉県	山梨県	茨城県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
東京都 東京都選抜(墨東60)		①－A 2－0	③－B 4－1	⑥－C 0－1	6	2		1	6	1	5	2
埼玉県 埼玉シニア60	①－A 0－2		⑥－D 2－0	③－D 0－1	3	1		2	2	3	−1	3
山梨県 山梨シニア50	③－B 1－4	⑥－D 0－2		①－C 2－3	0			3	3	9	−6	4
茨城県 ラッツォス古河FCシニア	⑥－C 1－0	③－D 1－0	①－C 3－2		9	3			4	2	2	1

【B組】　会場：市原スポレクA（道路側）B・C・D（人工芝）※20分―10分―20分

	東京都	埼玉県	山梨県	茨城県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
千葉県 ACちば		①－B 5－0	③－C 1－1	⑥－A 1－0	7	2	1		7	1	6	1
栃木県 栃木大昭SC	①－B 0－2		⑥－B 0－1	③－A 2－2	1		1	2	2	8	−6	4
神奈川県 横須賀シニアSC	③－C 1－4	⑥－B 1－0		①－D 2－0	7	2	1		4	1	3	2
群馬県 群馬FC60	⑥－A 1－0	③－A 2－2	①－D 0－2		1		1	2	2	4	−2	3

※ 勝ち点　勝ち：3点　引き分け：1点　負け：0点（同率順位の時：得失点差・総得点・当該チーム試合結果により）

【優勝・３位・順位決定戦】　開始時間：12時30分　※順位により、表彰を行ないます

会場：　決勝：Ｃグランド　３位決定戦：Ｂグランド

決勝		茨城県	VS	千葉県	優勝	千葉県	第一代表
	Ｃグランド	1		2	２位	茨城県	第二代表
３位決定戦		東京都	VS	神奈川県	３位	神奈川県	第三代表
	Ｂグランド	1		2	４位	東京都	
５位決定戦		埼玉県	VS	群馬県	５位	群馬県	
	Ａグランド	0		4	６位	埼玉県	
７位決定戦		山梨県	VS	栃木県	７位	山梨県	
	Ｄグランド	2		1	８位	栃木県	

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

第５回全国シニアフェスティバル関東予選
第２回関東選手権（Over70）大会・成績表

【Ａ組】　会場：市原スポレクA（道路側）B・C・D(人工芝)　※20分ー10分ー20分

	東京都	群馬県	神奈川県	山梨県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
東京都 東京都ロイヤル		②ーA 6ー0	④ーB 1ー0	⑤ーC ー	6	2			7	0	7	1
群馬県 群馬FC60	②ーA 0ー6		⑤ーD 0ー8	④ーD ー	0			1		6	−6	3
神奈川県 茅ヶ崎70雀	④ーB 0ー1	⑤ーD 8ー0		②ーC ー	3	1		1		1	−1	2
山梨県	⑤ーC ー	④ーD ー	②ーC ー		棄権	中止					0	

【Ｂ組】　会場：市原スポレクA（道路側）B・C・D(人工芝)　※20分ー10分ー20分

	東京都	埼玉県	山梨県	茨城県	勝点	勝ち	引分	負け	得点	失点	得失差	順位
埼玉県 埼玉シニア70		②ーB 2ー1	④ーC 5ー0	⑤ーA 1ー0	9	3			8	1	7	1
千葉県 ACちば	②ーB 1ー2		⑤ーB 0ー0	④ーA 3ー1	4	1	1	1	4	3	1	2
栃木県 栃木大昭SC	④ーC 0ー5	⑤ーB 0ー0		②ーD 0ー4	1		1	2	0	9	−9	4
茨城県 茨城シニア70	⑤ーA 0ー1	④ーA 1ー3	②ーD 4ー0		3	1		2	4	3	1	3

※　勝点　勝ち：3点　引き分け：1点　負け：0点（同率順位の時：得失点差・総得点・当該チーム試合結果により）

【優勝・順位決定戦】開始時間：11時30分　※順位により、表彰を行ないます

会場：　決勝：Ｃグランド　３位決定戦：Ｂグランド

決勝		東京都	VS	埼玉県
	Ｃグランド	6		0
３位決定戦		神奈川県	VS	千葉県
	Ｂグランド	1		0
５位決定戦		群馬県	VS	茨城県
	Ａグランド	0		2
７位決定戦			VS	
	Ｄグランド			

優勝	東京都	第一代表
２位	埼玉県	第二代表
３位	神奈川県	
４位	千葉県	
５位	茨城県	
６位	群馬県	
７位	栃木県	

グラスルーツフェスティバル2014とちぎ ～底辺拡大への取組み～

キッズ委員会委員長　金井　理

◇グラスルーツとは？

今年も昨年に引き続き「グラスルーツフェスティバル2014とちぎ」を開催しました。
昨年の広報誌にも「指導者目線での関わり」について紹介させていただきました。今回は、グラスルーツフェステバルの意義について紹介したいと思います。

グラスルーツフェスティバルには、二つの大きな目的があります。一つ目は、サッカー経験のない子ども達に体験させて底辺を拡大しようとすること。もう一つは、ミニゲームやワークショップ（簡単なトレーニング）を取り入れることでイベントの質を高め、「楽しむ」と同時に「学ぶ」要素を体験してもらうことです。

（クロージングでの笑顔）

◇少年期のサッカー環境

栃木県のサッカー事情を考えると、関東の中では消してレベルが高いとはいえないのが現状です。しかし、年々指導者のレベルが上がってきていい選手がたくさん育ってきています。この現状をさらによりよくするためにはサッカーをする子ども達の底辺を広げていくことがとても重要です。

サッカーをやっていない子ども達をどれだけサッカーの魅力に引き込めるか、ということがとても大切です。底辺の拡大していくことは、栃木県のサッカーの発展につながる大切な要素です。

子どもはサッカーをやりたいけれど、家庭の都合でチームに入って活動することが難しい、という話をよく聞きます。各チームでの当番による仕事が大変、土日のサッカーでの時間の拘束が負担になる等理由は様々です。実は、そのような理由でサッカーのチームに入って活動していない子ども達がたくさんいることに驚かされます。

◇グラスルーツフェスの意義

私たち指導者は、そのような環境にある子ども達や保護者の皆さんに、外で体を動かすことの爽快感やチームに入って活動することの楽しさなどサッカーの魅力を伝えていかなければいけないと思います。その一つの方法として、「グラスルーツフェスティバル」は大変良い取り組みだと思います。

（最初に出会う指導者として・・）

サッカーに興味はあるけど・・・という子ども達に対して「楽しむ」ミニゲームばかりではなく「学び」のワークショップがあるという形式が非常に受け入れやすいと思います。

私たち指導者にとっても、指導の原点に立ち返れるとても良い機会だと思います。ワークショップでできたことを褒め、さらにゲームの中でもできたら褒められる。褒める機会を数多く作れる形態でもあるからです。

子ども達にとって、「褒められる→嬉しい・楽しい→またやりたい→もっとやりたい→チームで試合がしたい」というようになってほしいですよね。そして地域の各チームが活性化していけたら最高です。

◇オープニングへ向けての準備

今回は、初めてサッカーのイベントに参加する子ども達が多く参加している状況でした。このような子ども達にどんなことをしたらサッカーが楽しいと思ってもらえるのか、もっとやりたいと思ってもらえるのか、キッズ委員会でも時間を掛け何度も集まりながら検討しました。少しでも質を高めようといろいろな意見が交わされました。各セッションのネーミングにもこだわりました。あとは、集まった指導者の皆さんにコンセプトを伝

え、同じ絵を描きながら子ども達に接することができるかです。

（指導者全員でシミュレーション）

今回もＣ級、Ｄ級リフレッシュ研修会として募集したところ、28名の指導者が集まってくださいました。予想をはるかに上回る人数で大変うれしい限りでした。また、数ある研修会の中から選んできてくださっている意識の高い指導者の皆さんが集まってくださいました。

午前中の講義やワークショップ担当のチーフコーチからトレーニングのシミュレーションを行いました。参加されているコーチの方々が交互に体験をして、全員がすべてのコーナーを理解し、今回のイベントの趣旨や内容を理解していただきました。

◇最初に出会う指導者として

人との出会いは第一印象がとても大切ですよね。サッカーでも同じです。もしかしたら、関わった子どもたちの中には初めてコーチに触れる子どももいたと思います。今回集まってくれた指導者の皆さんは、そのことをしっかりと意識して子ども達の目線で、体全部を使って楽しくできるような雰囲気を作ってくれていました。子ども達の気持ちをなごませるような言葉かけや、上手にできた時をのがさず褒めてあげる等、一人ひとりに目を配り素晴らしい関わりができていました。いつの間にか同じチームになったコーチや子ども同士が仲良くなり、自然と子ども達の顔が笑顔になっていました。ゲームでは、円陣を組んで頑張ろうとする一体感を見せてくれていました。

そんな指導者のもとであれば、子どもも保護者も安心して１日を過ごせたと思います。
指導者の接し方がその子どもの将来に影響するかもしれません。指導者の接し方が要因となってサッカーを始める子供もいるかもしれません。このイベントを通して、子ども達にとって指導者の関わり方の大切さを改めて感じました。

◇さらなる底辺拡大を目指して・・・

サッカーを始めている子ども達にとって、大会やフェスティバルはキッズ年代からあちこちで開催されています。数年前とは大きく環境が変わりました。

今後更に栃木県のサッカーの発展やレベルアップを考えた時、二つの提案があります。

一つ目は、「グラスルーツフェスティバル」の県内各地への波及です。今は、県レベルでの取り組みでしかありませんが、これからは、県内各地区で行われるようになってほしいと思います。さらにはもっと小さな地域で、さらには各チーム主催で行われるようになったらすばらしいですよね。自然と底辺が拡大される環境を私たち大人が作っていくことが栃木県のサッカーを盛り上げることにつながるのではないでしょうか。もう待っているだけでは底辺拡大はないと思います。今回参加された指導者の皆さんには、準備も指導者の確保も大変ですが、それぞれの地区やチームに戻って発信してくれることを期待しています。

（指導のレベルアップを目指して）

二つ目は、指導者のレベルアップです。少年サッカーに関わっている以上は、いい選手を育てられるようないい指導者になりたいですよね。子ども達も親も、これからはチームを選ぶのではなく、指導者を選んでサッカーを始めたいと考えている家庭が多くなってきています。私たち指導者は、これからサッカーを始めたい子も含めてキッズ年代からトータルして育成していけるだけの指導の知識が必要とされてきています。その年代に合った指導を自信を持ってできるように私も皆さんとともに勉強していきたいと思います。

私たち県協会キッズ委員会では、いろいろな場面でキッズ年代の指導の大切さを発信していきますので、関心がある指導者の皆さんは是非耳を傾けていただければと思います。

関東女子フットサルリーグ
アマレーロ峰FCが復帰

第６回関東女子フットサルリーグ入りを懸けた参入・入れ替え戦が２月１、22日、山梨県の小瀬スポーツ公園体育館で行われ本県女子代表のアマレーロ／峰FCがトーナメントを勝ち抜き３年ぶりの関東女子リーグ復帰を決めました。

参入・入れ替え戦は、最初に各都県代表によるトーナメントを行い、そのトーナメントを勝ち上がってチームがそのシーズンの関東女子リーグ下位チームと対戦する形式。アマレーロ／峰FCは１回戦で深谷FC（埼玉）に１－１、PK２－０で勝利すると、２回戦ではCANA･CRAVO（千葉）を２－１で競り勝ちました。ブロック決勝となるセウパレータＡ＆Ｓ（関東リーグ８位、神奈川）との対戦では５－０、見事、関東女子リーグ復帰を決めました。

▲関東女子リーグ復帰を決めた峰FC

2014年シーズンの地元関東大会
県勢５チームが健闘

2014年度は本県で２つの大きなフットサルの関東大会が開催されました。フットサルの「天皇杯」とのいえる「プーマカップ2015第20回全日本フットサル選手権大会第関東大会」とフットサルの「高円宮杯」といえる「第20回全日本ユース（U-15）・第５回全日本女子ユース（U-15）フットサル大会関東大会」がいずれも８年ぶりに本県開催となり、県勢が健闘の戦いを展開しました。

プーマカップは１月24、25日に清原体育館、１月31日と２月１日に栃木市総合体育館で開催。本県第１代表の三栄不動産FC宇都宮は、１回戦でフュンフシュピーラー山梨（山梨）に３－３、PK３－

▲本県第１代表の三榮不動産FC宇都宮

２で勝利し、県勢として初の初戦突破、準々決勝進出を果たしました。準々決勝ではカフリンガ東久留米（関東リーグ１位シード、東京）に４－１で敗れましたが新たな歴史を作りました。一方、本県第２代表の赤堀は、１回戦でファイルフォックス府中（関東リーグ２位シード、東京）に３－５と敗れましたが、過去４度の同大会全国制覇を誇る強豪相手に堂々の戦いを展開しました。

▲本県第２代表の赤堀

全日本ユースは昨年11月22、23日に清原体育館で開催され、男子の部に本県第１代表でウイングスSC、第２代表で下野きさらぎJrユース、女子の部に足利・両毛ローザが出場しました。男子の部は３チームによる予選リーグと決勝トーナメントの大会方式。ウイングスSCは予選リーグ初戦でトラベッソ（山梨）に８－２で快勝するものの、２戦目のフウガドールすみだウイングス（東京）に３－４で敗れ、予選リーグ２位で惜しくも敗退。下野きさらぎJrユースも初戦でFC駒沢（東京）に７－４と勝利するものの、２戦目で紋蔵庵FC（埼玉）に４－７で敗れ、予選リーグ２位で決勝トーナメントへは進めませんでした。女子は各都県代表８チームによるトーナメント。足利・両毛ローザは１回戦で強豪・十文字学園（東京）と対戦し、０－９と敗れまし

た。本県のジュニアユースフットサルはまだまだ伸びしろがあります。さらなる成長を期待したいと思います。

▲男子第１代表のウイングスSC

▲男子第２代表の下野きさらぎJrユース

▲女子代表の足利・両毛ローザ

栃木SCレディースMF 吉間選手、U-16日本代表に

栃木SCレディースのMF吉間かれん選手（15）がU-16女子日本代表に初選出され、２月11～15日にアメリカ・カリフォルニア州で行われた「U-17女子　NTC招待」に出場しました。今回の遠征は、今秋、中国・武漢で行われる「AFC　U-16女子選手権」や、その先にある「FIFA　U-17女子ワールドカップヨルダン大会」の出場を見据えたもので、吉間選手は３試合に出場しました。３月１日には栃木県サッカー協会の「太郎賞」を受賞し、さらなる飛躍が期待される吉間選手に、アメリカ遠征や今後の抱負を語ってもらいました。

日本代表選出の知らせをもらったときは、正直、信じられない気持ちでした。大会では初めて外国人の選手と試合をして、体の大きさやレベルの高さを感じました。ポジションは固定ではなく、栃木SCレディースで務めているトップ下のほかにも、サイドハーフやサイドバックなどでもプレーしました。

カナダ戦とアメリカ戦は先発出場し途中交代、メキシコ戦は途中出場でした。代表チームということで、日ごろから練習をしているメンバーとは違って、プレーを合わせる難しさもありましたが、よい経験になったと思います。チームには貢献できた面もそうでなかった面もあったと感じています。この経験を次のステップにつなげていきたいです。

また「太郎賞」の受賞は、これまですばらしい選手たちが受賞している賞でとても光栄に感じています。春からは全国高校女子選手権で日本一になった、日ノ本学園高（兵庫）に進学します。強豪校への入学で、より厳しい環境に身を置くことになりますが、積極的に仕掛けていくプレーを忘れず、選手として、人としてしっかり成長していきたいと思っています。

【大会結果】

２月11日　日本　８－０　U－17カナダ女子代表
２月13日　日本　２－０　U－17メキシコ女子代表
２月15日　日本　１－３　U－17アメリカ女子代表
※日本代表は４チーム中２位

《プロフィール》

きちま・かれん　清原中３年。小学１年の時に清原SSSでサッカーを始め、その後、小学４年ジェフユナイテッドクオーレへ移籍。中学からは栃木SCレディースに所属。157センチ、・ｷﾛ。1999年４月19日生まれ。

2014年関東審判トレーニングセンターに参加して

栃木県　2級審判員　国井　駿

私は2014年４月より関東審判トレーニングセンター（以下関東トレセン）の一員として研修会に参加させていただきました。

関東トレセンとは、①地域のサッカーレベル向上。②２級審判インストラクター、２級審判員の育成・強化。③オブザーバー参加による３級審判インストラクターの育成。④才能ある審判員の人材育成・発掘を目的とした事業です。毎月１回開催され、会場は８都県。合計８回行われました。

参加者は、参加しているインストラクターや審判員の指導者であるダイレクター。各方面への連絡など、様々な面で繋ぎ役であるコンタクトパーソン。フィジカルトレーニング等を担当するフィットネスインストラクター。関東２級インストラクター（３名）。関東２級審判員（６名）。各開催都県のオブザーバー（インストラクター、審判員など）です。

関東トレセンは１泊２日で開催されます。基本的に１日目は会場に集合し、開講式と判定テストを行った後に試合を行います。試合後は講義等の研修を受け、最後に１日の振り返りを行って１日目が終了します。

２日目は全員で朝食をとった後、先日行われた試合のレフェリング分析を行います。さらに講義を受けて、昼食後はサッカー理解のためのゲームを行います（参加者全員でサッカーをします）。午後の部はプラティカルトレーニング（実践的トレーニング）、フィジカルトレーニングを行い。最後には12分間走を走り、閉講式を行うといった流れで研修会が行われます。

具体的にどのような内容なのかを説明させていただきます。

判定テストとは、例えば相手にタックルする反則に関する映像を５つ見て判定をし（ファウル？ノーファウル？カードは必要？等）、その後行われる試合の判定基準のレベル合わせをすることです。試合は主に高校生のトレーニングマッチや県のリーグ戦を使用させていただきました。技術、スピードともにレベルの高いゲームばかりで、とてもやりがいのある試合でいい経験ができたと思います。

関東トレセンでの講義は様々な内容で、ダイレクターやインストラクターからお話をいただけます。「審判員の研修会なのだから競技規則の話ばかりしているのではないか？」と思われる方も多いと思います。もちろん競技規則に関する講義もあります。しかしそれだけではなく、ダイレクターやインストラクターのこれまでに経験したことに関してお話もいただけました。様々なお話を伺った中から感じたことは、「一見サッカーとは関係のないところでも審判員に通ずる」。仕事でも私生活でも何でも審判活動につながることを感じた講義ばかりでした。

レフェリング分析では、試合を撮影した映像を見ながら「この場面はどうだったか？どこで事象をみればよかったか」など自分のレフェリングを振り返る貴重な時間です。実際に自分が審判をしているときの姿勢、表情、態度、走り、シグナルなど客観的に見ることができます。自分の映像を見ることによって次の課題や発見が見つかりました。

トレーニングは主に「プラティカルトレーニング」と「フィジカルトレーニング」に分けられます。プラティカルトレーニングとは試合を想定し、実際に主審や副審を務めて実践的にトレーニングをするものです。主に高校生がこのトレーニングに協力してくれました。

フィジカルトレーニングは、その名の通り走力強化、体幹などの筋力強化を目的としたトレーニングで、審判員のみならずインストラクターやダイレクターも一緒にトレーニングをすることもあります。特に体幹トレーニングは皆で声を掛け合いながら辛いひと時を過ごしたことが印象的でした。

関東トレセンに参加して得たものは数えきれないほどありますが、大きく２つあります。

１つ目は「自分の強み、弱みがはっきりしたこと」です。参加していた審判員は関東でもトップクラスで、審判員として見本になる方々ばかりでした。彼らと１年間過ごしてきて今の私に通用すること・しないことがはっきりしたことにより、今後の審判生活に必ず活きると私は考えています。

２つ目は「出会い」です。研修会を通して様々な方と出会いました。審判関係の方々はもちろん、選手やチーム関係者、宿舎や試合会場で出会った方々など多くいらっしゃいます。特に印象に残っているのは鹿島アントラーズのクラブハウスにあるグランドで試合があった際、アントラーズのトップチームの練習を見に来ていたサポーターの方から声を掛けていただき、研修会で来ている旨を説明すると「審

判の方々って、そのような研修をしているのですね。普段は試合の中でしか審判を見る機会はないし、お話しする機会もないので全く知りませんでした。」といったお話ができたことです。サッカーを通じて出会いが生まれた瞬間だと感じました。これからもこのような出会いを大切にしたいと思っています。

最後に鈴木審判委員長をはじめ、普段からお世話になっている皆様に心より感謝申し上げます。大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

研修会の様子

プラティカルトレーニングでダイレクターから指導を受ける（一番左が筆者）

栃木県における フットサルの状況について

審判委員会フットサル部

みなさんは、フットサルという競技をご存じですか。ベテランの人には「ミニサッカー」と呼んだ方が馴染みがあるかと思います。

フットサルは、サッカーのペナルティーエリアよりも少し大きいピッチで、敵味方５人ずつで行う競技です。サッカーと違うところは、①オフサイドがない。②競技者の交代は何度でも自由にできる。③弾みの少ないボールを使う。④タッチライン上にそれぞれ笛を持った審判が２人いる。⑤試合時間はボールがアウトオブプレーになると計測を止める「プレーイングタイム」であることが主な違いです。

県内においては、小学生のU-12、男女中学生のU-15、高校生のU-18、大学生程度のU-23及び男女社会人のカテゴリーに分けられます。

主な大会として、U-12には全国大会であるバーモントカップの県及び地区大会、その他各地域独自の大会。U-15・18では、全日本ユース選手権に向けた県大会。U-23では、選抜チームを編成しての活動が行われています。また。社会人の男子では県リーグ、全日本選手権の県大会と各フットサル施設における独自の大会が開催されています。なお、社会人では三榮不動産とモランゴ栃木の２チームが関東リーグ２部で奮闘しています。また、社会人女子では県リーグを中心に活動し、関東リーグへの参入戦とトリムカップという大会に参加しています。

各カテゴリーの中でもU-12～18の大会が少ない状況になっており、一番フットサルに親しんでもらいたい年代であることから非常に残念なことですが、今後は特に力を注ぐべきカテゴリーであるという認識の下、各年代ごとの連携強化が非常に重要になっていくと思われます。

一方、審判の状況は、４級から２級の審判員と２及び３級インストラクターが登録されています。各カテゴリーとも「帯同審判」という立場で活動されル方が最も多いのですが、このほかに社会人の県リーグや関東リーグ以上のカテゴリーに派遣される審判員も存在します。現在、２級に８名、３級に36名、４級には400名を超える審判員が登録されているほか、２級インストラクター２名、３級インストラクター４名が審判員の指導に当たっています。

県リーグなどに派遣される審判員は、ほぼ毎週審判活動を行い、多い人は1シーズンで100試合以上をこなす人もおり、レベルの高いリーグで知り得た情報を県内の審判員に伝える役割も担っています。しかし、帯同審判の人たちと接する機会は非常に限られており、U-12では大会前の講習会、これ以外では更新講習会などでしかお会いすることができません。このため、この機会を逃してしまうと情報伝達を効果的に行えなくなるため、講習会の内容も、今までの座学中心のものから実技中心のものに変え、試合の場面を想定したものとしました。また、

３級以上の更新講習会では競技規則に加え、体力の確認も行うこととし、普段からのトレーニングを意識してもらうようにしました。このように、今の状況に甘んじることなく、常に上のレベルを目指すような積極的な気持ちを持っていただきたいと思います。特に、３級の女性審判員がいないことから27年度は３級を目指す女性審判員に現れてほしいと思います。

最後に、「積極的に審判活動をしたい。」「地域で審判の勉強をしたいが指導者がいない。」などという場合は、遠慮なく審判委員会に相談をしてください。日程調整の上できる限りの支援をしたいと思います。サッカーに比べると競技人口が少ないフットサルですが、今回のお話が少しでもフットサルを知ってもらえるきっかけになれば幸いです。

（県リーグ）

４級更新講習　（実技）

３級更新講習　（体力確認）

ユース審判活動報告

ユース審判　阿久津　駿

昨年は貴重な経験ができた１年だったと思います。そんな１年の主な活動をご報告します。

８月２日～９日にかけて、第38回全日本少年サッカー大会　決勝大会に参加させていただくことができました。研修会は大会開幕の２日前から始まりました。競技規則テスト、フィットネステスト、プラクティカルトレーニング、講義などを受けて試合に臨みました。１次ラウンドは１人制審判で行い、２次ラウンド以降は３人制審判で行いました。１人制審判は、オフサイドの監視が１番大変でした。自分が今までにどれだけ副審に頼っていたかが分かりましたし、自分で見て、自分で判定する力がついたと思います。試合では予想もしていないことが起こってしまったり、判定をミスしてしまったりと失敗することが多かったですが、インストラクターの方の話を聞いて修正することができました。この研修会では、貴重な経験ができましたし、他県のユース審判とも交流できたのでとても楽しい研修会でした。

この大会では、主審５試合・副審２試合・第４審２試合の合計９試合を担当しました。

11月21日～24日にかけて、2014年度ブラッシュアップ講習会にも参加させていただくことができました。この研修会は、ナショナルトレセンU-14地域対抗戦を使用して行われました。試合はフルピッチを１人制審判で行いました。フルピッチを１人で担当することが初めてで、また中学生年代でナショナルトレセンということもあり、夏の全少よりレベルが上がった試合を１人で吹くことは難しいものでした。しかし、次世代の日本代表と一緒のピッチで試合をしていると思うと、とても試合を楽しむことができました。研修会全体を通しても、とても楽しんで活動できました。

これらの活動のほか、夏には真岡カップに参加させていただき、それ以降審判トレセンのほうにもお声をかけていただきました。私は、たくさんの方々から支えていただいているからこのような経験をさせていただけているのだと思っています。そんな方々の期待に応えるため、日々感謝の気持ち・謙虚さを忘れずに、まずは２級昇級を目指し、頑張っていきたいと思います。

（ブラッシュアップ講習会参加者）

（全日本少年サッカー大会ユース審判員）

（全少ドリームトーナメント決勝審判団）

女子審判トレセンについて

３級インストラクター　徳田　明義

THE CHALLENGE to
REFEREE FRIEND, S DREAM

５項目にある女子審判員の強化、増員という大命題を受け着任２年目になります。

１年目は何もできずの状態でしたが２年目になり各月U-18技術トレセンとのコラボにより女子審判トレセンの実施また鈴木委員長のご協力のもと６月には県女子トレセン10月には都道府県女子トレセン参加43名の実施ができました。ご協力くださった皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

県審判委員会の決定で女子の試合は女子のみで運営するという題目も未だできていない状態ですが着実にその試合数は増えています。１日でも早く実現に向け努力している次第です。

今年度女子部では松枝氏大谷氏が２級、齋藤氏が３級昇格しました。また父兄では樋口氏が２級、上楽氏が３級インストラクターと頼もしい仲間もできました。ご存知の様に女子の育成には父兄のリスペクトが必須です。これからもご協力よろしくお願いします。

１月の高校新人大会から始まり大田原ライオンズカップまで10試合女子のみでの審判ができました。2015年度は20試合を目標とし各チームの協力を得て実施していく所存です。県リーグの成熟も観点にいれ女子委員会に提案したいと思います。

研修では審判がいないと試合ができないというリスペクト、自覚責任という心の育成、審判がサッカーを強くするという意味が理解できる審判員を１人でも多く増やす事を念頭に引き続きトレセンを実施していきます。

各チームの関係者の皆様にはぜひご理解戴き５年後のオリンピックまた栃木国体に１人でも多く栃木県出身者が舞台に立てる事を夢みて2014年度の報告とします。

全国高校サッカー選手権大会県予選決勝戦における３県交流について

第２種　審判委員長　高山　啓義

第２種　高体連サッカー専門部では、2009年より全国高校サッカー選手権大会県予選決勝戦において、栃木・茨城・群馬の各FAの協力の下、審判員の交流を行っている。

2009年の決勝戦は、栃木の審判員（主審１名）が茨城県の決勝戦へ派遣され、茨城県の審判員（主審１名）が栃木県の決勝戦に派遣された。各都道府県でも同様であるが、全国高校サッカー選手権大会県予選の決勝戦は、非常に重要な試合で注目度も抜群に高い。殆どの場合主審は地元の１級審判員が担当するが、2009年は栃木の１級審判員は全員が国際審判員であり、海外試合のアポイントがあったために決勝戦を担当することが出来なかった。栃木県と茨城県の決勝戦は１週間ずれていたので、交流という形で茨城県に助けを求めたのである。幸い茨城県の木内審判委員長にも快諾していただき、交流がスタートした。この交流がとてもよい評判を得たので、2012年より群馬県も交流に加入し、現在は栃木・茨城・群馬の北関東３県での交流となった。交通手段が北関東自動車道のおかげでスムーズに派遣先へ行けるようになったことも大きい。最初は主審１名のみの派遣であったが、世界的な流れでは３人のトリオでのセットが主流であるので、2013年からは主審１名副審２名の計３名の審判員が各県へ派遣されることになった。

栃木の審判員が地元の試合を担当する時には、試合に際して何もなかったとしてもプラスに作用することはなく、逆にマイナスに作用した時の反動はとても大きい。他県の審判員という中立の審判員が担当することにより、その懸念が払拭されたので３県ともにこの交流の評価はかなり高い。全国高校サッカー選手権県予選の決勝戦は、３県ともにＪクラブがＪリーグで試合を行うスタジアムを使用するので、副審を担当する２級審判員にとってはよい経験となるだろう。また、各県の試合運営方法や審判員事情、各県チームのサッカースタイルを知ることは、各県の審判員がそれぞれの地元へフィードバックすることが出来るよい機会となる。

今後もこのようなよい取組みを各県FAの協力を得て行っていきたい。

審判47年・公式戦3000試合を務めて

県審判委員会　奥澤　浩

大きく息を吸って強く３回終了の笛を吹いた。2014年11月２日（日）午後２時47分であった。慣れ親しんだ宇都宮市平出サッカー場で、3000試合が終了した瞬間である。しかし「やったぞ」と言う気持ちは全く湧かなかった。いつも通りの「試合が無事に終わった」と言う気持ちだけであった。

第52回宇都宮市民スポーツ大会、横川地区－陽南地区の決勝戦。私をサポートしてくれたのは副審・手塚信行さんと舘岡孝弘さん、第四審判は鷹箸永志さん。選手の先頭に立ちフィールドに入ったら、バックスタンドに仲間が作ってくれた横断幕が目に飛び込んで来た。メインスタンドには多くの仲間が来ていた。旧知の船本直夫さんも東京から駆け付けてくれた。

キックオフ直前に横川の選手に「10秒間待って下さい」と伝えた。そして空を見上げてつぶやいた。３月24日に64歳で亡くなった十河正博さんに「天国から見ていて下さい」と話し掛けた。試合は前半０－０で終了。後半15分に横川が先制点。26分には陽南が同点に追いついた。延長戦かと思われたが、終了３分前に横川が決勝点を上げて優勝を飾った。

試合後に行われた表彰式には審判団も立ち会った。その後、審判室で報告書を記入していたらフィールドに呼び戻された。多くの人達の拍手に迎えられ中央に位置した。宇都宮サッカー協会の渋谷健一・事務局長から花束や記念品の贈呈。町田文男・理事長からは、長年の労苦と過分なお褒めの言葉を頂いた。続いて仲間からの胴上げで５度宙に舞い、多くの審判仲間と記念写真を撮りセレモニーは終了し

た。場違いな雰囲気で時間が長く感じられた。
夜には仲間が祝賀会を開催してくれた。JR宇都宮駅の近くだったので電車で行った。居酒屋なので15名位だろうと思っていたら、ここでも大きな拍手で迎えられた。何と県内から50名近くの仲間が来てくれて、祝賀会は３時間に及んだ。
私は日頃の指導では、文句や小言しか言っていないのだが、それに対してこの人数は一体何だろうと思ったら、思わず胸が詰まってしまった。９月28日に「出来ればこの日の試合になればいいな」と言った覚えはあったが。いつの間にか多くの仲間が裏で動いてくれていて、この日この様な大掛かりな試合と祝賀会になってしまった。感謝の言葉しかない。

こんなに長く審判をやる積りはなかった。また、ここまで長くやれるとも思わなかった。この一件がなかったら、私は絶対に審判はやっていなかっただろう。中学２年の秋、新人チームになっての練習試合だった。私はFWで８番（ライトインナー）のポジション。前半に右タッチライン際で、中央から斜め前へのパスを受けた。するとピー！と笛が鳴った。一体何だろうと思ったらオフサイドだと言う。目の前にはFB（フルバック）がいてゴール前にはGKがいたのに。主審は相手校の先生である。ハーフタイムに「何でですか」と聞くと「オフサイドだ」の答えだった。
スコアは忘れたが、後半も終わり試合は負けた。私は負けた悔しさよりも、あの判定に納得していなかった。試合後に主審の先生の所に行き「さっきの判定の説明をして下さい」との言葉が終わらないうちに、往復ビンタが飛んで来た。そして「お前は生徒だろう。俺は先生だ。先生の言う事が聞けないのか」の言葉が後から付いて来た。この悔しさが、私が審判を始めようとした動機だった。
それともう一つ、続けなければならない出来事があった。昭和55年に地元で「栃の葉国体」が開催された。その大会で、どうしても笛が吹きたかった。そのためには１級審判員になる必要がある。栃木県協会と関東協会から推薦を受けて１級に挑戦した。しかし結果は、昭和51年・保留、52年は不合格となった。この時期は年間125～130試合もやった。夢の中でも審判をしていた。試合前日でも、試合翌日でもトレーニングをした。月間400Kmを走り血尿が２回も出た。
そこまでやってダメだったので、この時はもう審判を辞めようと思ったのだが。その悔しさは、時間が経過すればする程大きく膨らんで来た。この二つが要因で４度も職を替えて、47年間も続けるとは思っても見なかったが。

2014年新しい年を迎えた。3000試合まで「あと37試合」となり、何とか達成したいなと思った。日頃から若手審判員には「ケガや病気は試合のない時にする様に」と言っていた自分が、２月27日に病気に罹ってしまった。１級審判に挑戦していた頃になった十二指腸潰瘍が再発した。忘れもしない早朝の４時だった。真夏の試合でも、あれ程の汗は出ないだろう。「頭から水を被る」とは、こう言う事を指すのだろう。トイレに行ったらすごい血の海、これが２時間半に４回あった。緊急手術そして入院となった。先生は「あと２時間遅れていたら危なかった」と言っていたが。楽しみにしていた３月２日の県社会人審判研修会は、済生会病院の７階から天気だけを心配していた。
幸い一週間で退院したのだが、それからが大変であった。輸血の承諾書は書いたものの輸血はせずに済んだ。そのために相当な貧血状態になっていた。３月は少し動くと、座っていて立ち上がると、フラフラと目まいがした。４月に入ると下旬から県自治体大会が始まる。その辺からスタートしようと思ってトレーニングを再開した。30mのジョッグでも心臓が激しく動き、仕方なく早足にせざるを得なかった。一体この先どうなるのだろうと困ってしまった。
少しずつ動ける様になっては来たが、思っている半分も調子は上がらない。それが７月まで続いた。県社会人２部リーグの副審では、ダッシュすると「フラフラ・ドキドキ」。タッチライン際に置いてあるチームのボトルから、飲水するふりをして膝に手を当てて一息ついた。なぜここまでやったかと言うと、来年この時期の自分の姿が全くイメージ出来なかった。そのために焦っていたのだろう。それでも８月に入り、真岡カップの前には70％位回復した。

話を少し戻そう。
９月28日に「ここ平出でやれたらいいな」と仲間に言った時には、あと７試合残っていた。その後の割当は、10月18日に鹿沼自然の森で関東クラブユース（U-15）の副審、25日から28日まではさくら

市・氏家で関東自治体大会の副審４連戦が入っていた。しかし計算すると、あと１試合足りないではないか。10月12日は割当がなかった。割当がないと言う事は、大会が試合がないのである。調べてみたら宇都宮社会人Ｕリーグが、柳田緑地で行われる事が分かった。

事前にチームには何の連絡もせずに、柳田サッカー場へ足を運んだ。第１試合は10時キックオフと思って行ったら、試合はすでに始まっていた。このリーグ戦の審判は、お互いに「持ち寄り」で行っている。主審は第２試合の選手なのだろう。審判服は着ているがストッキングは黄色である。スタミナを温存しているのだろうか、センターサークル付近を中心に余り動かない。試合を見ている場合ではない。こちらも行動を起こさなくてはいけない。

第２試合を担当するチームが分かったので、お願いに行った。「実は第２試合の主審をやりたいんですが」と私。すると「何で」。私は「近々審判の試験を受けるので」と言うと、「ああ経験を積みたいと言う訳ね」。もう一人の控え選手が「これは社会人の試合だよ」。更に「やってもらうのは構わないが、試合が荒れちゃうと困るんだよね」。私は「充分に注意してやりますから、宜しくお願い致します」と言い、笛を吹ける事になった。

試合は互角１－０で何事もなく終了した。中々いい試合だった。私の近くで試合が終わった選手達も着替えをしていた。聞くとはなしに耳を傾けた。「審判もずい分走るんだな」。「この試合で一番走っていたのは審判じゃないか」。「やられたら、やり返そうと思っていたらすぐに笛が鳴るので、やり返せなかった」。「あんな風に笛が吹けたら気持ちがいいんだろうな」と、皆それぞれに勝手な事を言っていた。

私は、その日午後用事があったので、第３試合の前半だけを見て帰る予定でいた。その間に審判報告書を書かなければならない。報告書はありますかと聞くと、中央のベンチに置いてあるとの返事。見ると全て記入されているではないか。これは主審が記入するのだと言うと、「早めに記入しておかないと、そのまま帰ってしまう審判もいるので」との事。良く見ると上段の主審の所だけ空欄になっていた。私はそこに署名をしてベンチに置いて来た。

駐車場に向って歩いていたら誰かが走って来た。その人は私に「奥澤さんですか」と言うので、「ハイそうです」と答えた。するとその人は、父親から名前は何度も聞いていた。「うるさい、怖い、厳しい審判だ」と。しかし、今まで見た事がなかったのだと。「今はそんな事はありませんよ」と言って別れた。何とも愉快な半日であった。

審判は「頂上のない山を登っている」とか、「ゴールのないマラソンレースを走っている」と言う表現が当てはまるかも知れない。今まで節目の時には必ず「まだ通過点」と言って来たが、ようやく頂上やゴール地点が、少しずつ見えて来た様な気がする。犠牲と言う言葉は好きではないが、仕事や家庭を含めて多くのものを犠牲にしてやって来た。

それでも55歳の２級審判定年時には2517試合で終わり、3000試合は遥か彼方であった。でもその後の12年間は、その事だけが私の気持ちと身体を押し進めた。今年は47年間で一番苦しいシーズンであったが、終ってみれば一番思い出に残るシーズンとなった。

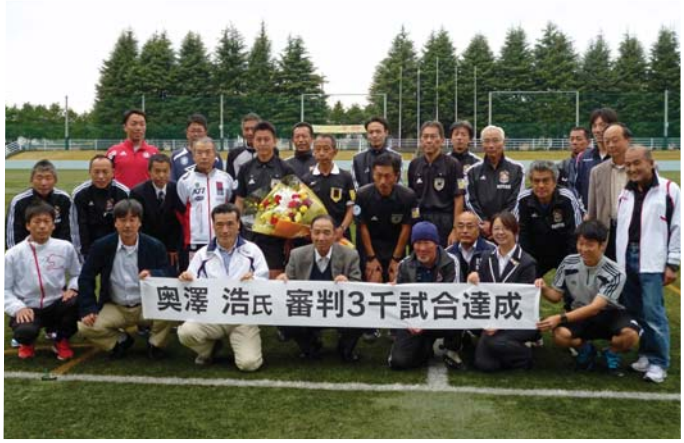
試合後に審判室で新聞社の記者から色々な質問を受けた。「なぜ47年間も長く、ここまで審判を続けてこられたのか」と聞かれた。要因は色々とあるだろう。でも一番はサッカーが好きだったのだろう。そして、審判員にしか味わえない気持ちがあった。それは「試合前の緊張感」であり、「試合後の安堵感や達成感」である。この気持ちが「たまらない・やめられない」ので、続けてこられたのだと思っている。

これから、どこまでやれるのかは分からない。目の前の一試合、次の一試合が最後かも知れないが、もう少しやろうと思っている。それでは益々皆様に迷惑が掛りますかね。今日の皆さんの心遣いは一生忘れないだろう。皆様、本当にありがとうございました。

（2014．12．30．　記）

試合前に両チームの主将と審判団
左から舘岡さん、鷹箸さん、筆者（中央）、手塚さん

セレモニーでは仲間の手で5度宙に舞った



試合後の記念撮影
試合には多くの仲間が駆け付けてくれた
※ 写真はいずれも黒澤幸樹氏の撮影

広報活動を振り返り

審判委員会　総務部　黒澤幸樹

昨年３月に十河前委員長がお亡くなりになり４月から鈴木審判委員長にかわり私にも広報部の話がきた。半ば強制的な羽石総務部長からの指名であった。広報の仕事と言っても特別忙しいわけではない。年２回発行されるサッカーとちぎの原稿依頼とその記事集めだ。それでも、やって行くうちに自分の知らなかった世界にと引き込まれる感があり、とても楽しく充実した１年を迎えることができた。

６月広報として初めての仕事がきた。それは相樂氏のワールドカップ報告会だった。多忙にも関わらず帰国後すぐに審判委員会の会議に参加した相樂氏の予定を確認し８月に開催する事が出来た。栃木県サッカー協会長である石﨑氏をはじめ矢板市サッカー協会長、社会人連盟の中山会長など数多くの参加者達が、相樂氏の報告会を楽しんだ。

８月国体の関東ブロック大会が栃木県で開催され成年と少年は宇都宮近辺、女子は青木での開催だった。私も役員として関わる事が出来、関東から推薦されたトップレフリー達のやる気に漲るオーラを目の当たりにすることが出来た。他にも関東の長田委員長を初め指導者の方々には大会期間中大変お世話になりっぱなしだった。

10月ねんりんピック栃木2014が開催され広報の私も写真を撮ろうと各会場を巡回する気で居たが台風でカメラを向けている場合ではなかった。私は壬生の会場でしたが寒さにも関わらずボランティアの方々の振る舞いには大変感銘を受けました。

11月奥澤氏が公式試合3000試合を迎える日が来た。長年摘み積まれた実績が3000と言う偉業を達成することになり私も県協会の広報部として色々事前準備に動いた。詳細は奥澤氏の記事があるので割愛するが夜の祝賀会には宇都宮駅前の居酒屋に50名を超える仲間たちが集まり賑やかな祝賀会になった。これも奥澤氏の人脈一重だろう。

12月ハートフルコミュニケーションの時期が来た。何十年も前から行われている非公式の県協会主

催の事業ではあるが最近は夜の部だけの言わば忘年会である。相樂氏を初めＪリーグで活躍している高山氏や手塚洋氏も参加し若手の審判員もお酒を楽しみながら審判ネタに話題が尽きない。他にも進級された方々の表彰と今年から新設された「十河正博賞」の授賞式が行われ鈴木委員長と奥澤氏が授与された。

最後に「審判王国栃木を作るぞ！」と故十河正博氏の熱意でここまで栃木県の審判が盛り上がって来たことと、鈴木審判委員長や奥澤氏の熱意が未来へ受け継がれる事を願い私も広報活動を通じより多くの仲間を増やす事を目標に栃木の審判をアピールしていきたい。

技術委員会より

技術委員長　川上　栄二

2022年栃木国体にむけて

①成年男子の強化策・・・ウーヴァ、ヴェルフェを中心に強化対策マネジメントを、大学生を中心に国体世代の強化を実施していく予定。

※強化対策マネジメントとは、「勝利」のためのチーム作りのことである。

②女子の強化策・・・国体チームを編成する上での母体となるチームが現在存在しないため、強化策を策定中である。具体策を現在示すことはできないが、県内大学への女子サッカー部の発足を促進したり、国体強化費：アドバイザリー事業を利用した県外の優秀な指導者の招聘、国体ふるさと制度を利用した県外で活躍する選手で選抜チームを編成するなど、H22から逆算した対策を検討中。

③少年男子・・・国体世代の強化策第１弾として、U-10強化を実施する。８月と２月の年２回の実施であるが、ここでは選手及び指導者の発掘・把握、双方のデータベース化を主目的とする。また、各地区４種で開催されるU-９大会への技術委員の派遣なども実施する。

④テクニカルスタディグループの立ち上げ・・・各年代のゲーム分析を行い、全国との差を比較分析し、還元していく。主に分析の対象は、選抜チーム。

ウェルフェアオフィサーについて

スポーツ界から、サッカー界から一切の暴力を根絶するために！

ウェルフェアとは、「幸福」や「うまくやっていく」という意味です。サッカーの現場でそれを体現するための働きかけをする人物がウェルフェアオフィサーです。JFA技術委員会より強い要請を受け、また県協会理事会にてもこの設置については積極実施していくことが確認されました。具体的な業務内容は今後詳細を詰めていく必要がありますが、各年代の主要大会において実施していくことになります。試合前後の指導の様子、試合中のベンチワーク、運営面への協力、審判への対応などにおいて、その良し悪しについて「気づき」を相互に与えあうことが狙いです。

選手の判断を奪わず、勝っても負けても気高く誇りを与えられる指導者がいるチームには、一切の暴力がありません。「プレーヤーズファースト」を口だけでなく、その運営の柱として体現できているクラブ（部活動も含め）には暴力が起こる要素がないのです。そのような指導者が増え、相互に高め合うことができれば、自ずから栃木県のサッカーの技術レベルは向上していくでしょう。互いに「気づき」を与えられる指導者のネットワーク化が、サッカー栃木の復活の鍵だと考えます。

平成26年度　（公社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）　平成27年２月28日現在

奥澤　直人
石﨑　洋子
FCグランディール宇都宮
檜山　達夫
北山　　亮
野木SSS
FC西那須野21アストロ
小池　一規
㈲スポーツショップ　ヤマトヤ
小山西高等学校サッカー部
東那須野FCフェニックス
今市第三カルナヴァル
円印刷株式会社
安納　明男
佐野日大高校サッカー部保護者会
宇都宮北高校サッカー部　OB会
栃木県社会人サッカー連盟審判委員会
シノザキスポーツ
ユー福祉タクシー
宇都宮大学サッカー部OB会
相樂　　亨
㈱竹石ビル
ウチノ税理士法人
滝の原サッカーOB会
泉フットボールクラブ宇都宮
揚茜クラブ
大内中学校サッカー部　協力会
鹿沼フットボールクラブOB会
星野　みい子

人と自然が調和した街づくり目指す
鈴運メンテック株式会社

○一般廃棄物の収集運搬
○産業廃棄物の収集運搬
○重機・一般貨物の運搬
○倉庫の賃貸及び保管管理
○高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241（代）
FAX 028-648-8318
http://www.suzuun.co.jp

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

■ 発行　公益社団法人 栃木県サッカー協会
■ 編集　公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
■ 発行責任者　石﨑忠利、村上富士夫
■ 印刷所　円印刷株式会社